
内子町環境報告書 2022

— キラリと光るエコロジータウン内子 —

発行にあたって

令和4年度は前年度に続き、新型コロナウイルス感染症対策と経済活動などの再開という相反する2つの課題に向き合った1年となりました。

このように難しい対応を求められましたが、オンライン会議の普及や、換気方法の見直し等、仕事の手法や生活様式の改善もあり、内子町エコオフィスプランに基づく、温室効果ガス排出量は、前年度比で約5.5%削減し、令和5年3月に表明しました「ゼロカーボンシティ」を目指していく数字の上では、好ましい結果となりました。

一方、今後、様々な活動がコロナ禍前の水準に戻ってくる中で、経済成長と温室効果ガス削減をいかに両立させるかが大切です。

「エコロジータウン内子」を掲げ続けてきた当町において「ゼロカーボンシティ宣言」は一つの明確なゴールが示されたこととなります。この目標を達成することは行政だけでも町民の方だけでも難しいことです。目標達成に向けて、共に取り組んでいけるような政策や体制を整えていきますので、皆様のご協力をお願いします。

令和5年3月

内子町長 小野植 正 久

= 目次 =

発行にあたって	2 内子町環境基本計画
1 環境トピック	(1) 個別政策取り組み状況 6
[自然分野]	(2) 独自目標達成状況16
(1) 自然観察会1	3 うちエコ取り組み状況
(2) セミの抜け殻調査2	(1) うちエコとは36
(3) 内子親子旅2	(2) うちエコ監査37
(4) 小田川シクロクロス in 内子2	(3) エコ見回り42
[暮らし分野]	(4) 数値目標評価結果43
(5) アースデイ in 内子3	4 内子町エコオフィスプラン46
(6) 緑のカーテンコンテスト4	5 環境データ
[環境教育分野]	(1) 河川・土壌49
(7) 環境子ども会議4	(2) ごみ53
(8) 幼稚園・保育園のエコ活動5	(3) 再生可能エネルギー56

1. 環境トピック

[自然分野]

(1) 自然観察会

内子町は ESD 推進事業 (Education for Sustainable Development : 持続可能な開発のための教育) の一環として、NPO 法人内子未来づくりネットワーク (以下「うちみづネット」という。) と協働し、自然観察会を実施しています。

この中で、毎年度継続して、水生生物の観察を通して河川の水質を考える学習を行っています。本年 3 月には、うちみづネットにより、これまでの観察結果をまとめた『内子の川の生きものハンドブック』が発行され、各学校や図書館に寄贈されました。

自然と触れ合う活動は、身近な自然環境に対する興味・関心を育む上でとても有意義であり、今後も引き続き事業を推進していきます。

—実施内容—

- | | |
|-------------|-------------------------------|
| 7 月 2 5 日 | 小田深山の自然観察会
(内子・小田放課後児童クラブ) |
| 9 月 8 日 | 小田川の水生生物観察
(内子小学校 4 年生) |
| 9 月 1 3 日 | 麓川の水生生物観察
(石畳小学校全学年) |
| 9 月 1 4 日 | 小田川の水生生物観察
(内子小学校 4 年生) |
| 9 月 3 0 日 | 小田川の水生生物観察
(五十崎小学校 4 年生) |
| 1 0 月 1 3 日 | 小田川の水生生物観察
(天神小学校 4 年生) |



小田深山の自然観察 (放課後児童クラブ)



小田川の水生生物観察 (内子小)



麓川の水生生物観察 (石畳小)



小田川の水生生物観察 (五十崎小)



小田川の水生生物観察 (天神小)

（２）セミの抜け殻調査

前年度に引き続き、生態系保全の取り組みとして、クマゼミの抜け殻調査を行いました。

セミは種類によって好む環境が異なっており、抜け殻の場所を調べることで環境変化を知る手掛かりとなります。今後も定期的に調査を行うことで、地域環境の変化を調べたいと考えています。



クマゼミの抜け殻

（３）内子親子旅

自然資源や景観を生かした地域づくりを目的として、内子ツーリズム推進協議会の主催により2019年から「内子親子旅」が実施されています。「内子の自然と遊ぶ」をテーマに、季節に応じて家族で楽しめる里山体験プログラムを提供するもので、本年度は約200人の参加がありました。家族単位の少人数での体験を基本としていることから、コロナ禍においても人気が高く、豊かな自然に囲まれた内子町の魅力発信に、ますます期待が高まります。



秋の内子親子旅

（４）小田川シクロクロス in うちこ

小田川リバーサイド・ふれあい事業の一環として、豊秋河原の特設コースで「第10回小田川シクロクロス in うちこ」が開催されました。

今回は第10回記念大会ということで一部公道を利用したコースで開催されました。また県外参加も再開しており、延べ184人が熱戦を繰り広げていました。



第10回小田川シクロクロス in うちこ

[暮らし分野]

(5) アースデイ in 内子

内子町では、ECO-ZUKI 内子（エコ好き内子）と環境政策室との共催により、4月22日のアースデイ（地球の日）にちなんでエコ活動を行っています。

近年は、コロナ禍で多くの人が一堂に会するイベントの開催が難しいため、ごみ拾いを中心に活動しており、本年度は春と秋の2回実施しました。擁壁の裏側や草木が生い茂っている場所など、人目につきにくいところに多くのごみが捨てられており、あらためて一人一人の環境意識の向上が課題だと認識しました。

—実施内容—

場 所：小田自治センター付近

実施日：4月23日（土）

活動内容：小田自治センター付近のごみ拾いと、
拾ったごみの分別

参加者：28人（うち高校生以下12人）

収集結果：ごみ5分類 52.4 kg、生活家電等

場 所：内子町役場前河川敷

実施日：11月26日（土）

活動内容：豊明河原付近のごみ拾いと、拾った
ごみの分別

参加者：28人（うち高校生以下13人）

収集結果：ごみ5分類 12.2 kg、



アースデイ in 内子（国道379号）



参加者と拾ったごみ



アースデイ in 内子（豊明河原）



収集後分別の様子

(6) 緑のカーテンコンテスト

家庭や事業所における夏季の省エネを推進し、地球温暖化対策に貢献しようと「第13回緑のカーテンコンテスト」を実施しました。

本年も環境 NPO サン・ラブのご協力により、ゴーヤ・ユウガオの苗を無料で配布しました。

最優秀賞：ふれあいの会 様

優秀賞：内子町子育て支援センター 様



最優秀賞：ふれあいの会 様



優秀賞：内子町子育て支援センター 様

[環境教育分野]

(7) 環境子ども会議

町内の小・中学生を対象に令和4年度環境子ども会議を開催しました。

全体講演は、会場とオンラインを併用して実施。昨年度に続き、今治自然科学博物館長の村上圭司氏を講師に迎え、かつては自然の一部として生活していた人間が、現在では自然を壊し、何種類もの動植物を絶滅に追いやっている現実を学び、これからどのように生活していくべきなのかを考えました。

後半は、中学生が風力発電を体験。装置を手作り、電気をつくる仕組みやエネルギーについて学習しました。



環境子ども会議の様子
(講師の話を聞きながら作業する様子)



環境子ども会議の様子
(完成した風力発電装置)

—実施内容—

実施日：2月8日(水)

内 容：「人間の活動と絶滅した動物たち」
「風力発電装置を作ろう」

講 師：今治城自然科学博物館
館長 村上圭司 氏

参 加：町内の小・中学生 約250人

(8) 幼稚園・保育園のエコ活動

町内の幼稚園・保育園では、それぞれ環境基本計画における「自然」「暮らし」「環境教育」の分野ごとに目標を掲げ、日々の保育や教育の中で環境の視点を意識した取り組みが行われています。

内子幼稚園では本年度、SDGs をテーマに、学習会やマーク探しゲーム、SDGs の歌に合わせたダンスなど、さまざまな場面で、子どもたちの興味を引くよう工夫をしながら取り組みを推進しました。

五城保育園では、「アユの放流～アユ捕り～アユの調理と食事」と、一連の流れを通して、生きものの成長や「命をいただく」ことを伝える取り組みを行いました。

この他にも各園で、「エコ見回り」や廃材を使った工作、植物の栽培や観察、生きものの飼育など、毎日の園生活の中で身近な自然や環境への興味関心を育む活動が行われています。



夏休みの SDGs ビンゴ



あゆの放流

2. 内子町環境基本計画

令和2年度より「第2次内子町環境基本計画」の後期計画がスタートしました。個別政策の取り組み状況、および3つのプロジェクトにかかる独自目標の達成状況を掲載します。

なお、計画の詳細は内子町のホームページで公開しています。

(1) 個別政策取り組み状況

① 自然プロジェクト

基本政策1) 生物多様性の保全・創造

個別政策	指数・数値目標	取り組み内容	達成状況	担当部署
★ 里地里山の保全	1	中山間地域等直接支払制度による農村景観保全活動の支援 集落協定への交付金：72,814千円	○	農林振興課
	2	放置人工林ゼロを目指した取り組み（森林整備事業） 間伐面積：300ha 条件不利地等の森林整備：100ha	○	農林振興課
	3	農地利用の最適化の推進 農業者年金加入促進：27件 家族経営協定の普及推進：123件	○	農業委員会
	4	多面的機能支払交付金による農村景観保全活動の支援 活動組織への交付金：17,877千円	○	農村支援センター
	5	林業施設の整備 林業整備事業：5路線 林業専用道整備事業：3路線 県営治山事業：5地区	○	建設デザイン課

	6	農業生産基盤の整備 県単独土地改良事業：3 地区 県営地すべり対策事業：2 地区	県単独土地改良事業 1 件を実施し、農道等の整備により維持管理の軽減と輸送の効率化を進めた。また、県営地すべり対策事業については、1 地区実施することで、農地防災機能の向上を図った	△	建設 デザイン課
生き物の調査と生息環境の保全・創造	7	生き物調査と保全プランの策定 調査 2 種と検討・選定 育成学習会：1 回 保全プラン：部分作成	セミ（令和 3 年度からの継続）と水生生物の生き物調査を実施。セミは次年度も継続調査を予定している。トコロジスト育成講座は、小田地区にて 7 月から 9 月にかけて 3 回実施した。	○	環境政策室
	8	自然観察会の継続実施 自然観察会：3 回以上 自治会活動の支援と啓発	自然観察会（水生生物観察、野鳥観察）を 2 回実施。また館報にてホタルや野鳥観察などの記事を掲載し、周知することができた。	○	五十崎自治センター
小田深山の自然環境の保全・活用	9	内子町山並保全・活用計画 植林・保護活動：3 回 環境学習会等：5 回 保全活動等：30 回	植林・保護活動 3 回、環境学習会等 5 回、保全活動等 5 回。 コロナが尾を引いていたが、保全活動等以外は目標を達成した。保全活動は多岐にわたるため目標を絞って実施していく必要性を感じる。また小田深山自然保全条例の策定も早急に実現したい。	△	小田支所

基本政策 2) 自然資源や景観を生かした地域づくり

個別政策		指数・数値目標	取り組み内容	達成状況	担当部署
★地域資源を活用したブランド作り	10	トレーサビリティ推進、化学肥料、化学合成農薬低減の取り組み 土壌診断：600 件	土壌診断 505 件 診断に用いる試薬等の価格が急騰したため、件数を 500 件/年とした。からり出荷者協議会主催の会などを通じて土壌診断のPRを行っている。	○	農林振興課 ・ 農村支援センター
観光や人材の受入環境を活かした	11	移住者受入れによる空き家活用の推進 うちこ屋バンク成約件数:3 件 移住相談時におけるエコロジータウン内子の周知：100%	うちこ屋バンクの成約 9 件。また移住相談時には内子町のまちづくりに共感していただく方に移住していただきたいので必ず周知するようにしており 100%達成している。	◎	総務課

	12	内子ねき歩き(まち歩き)事業 推進 参加者数:140 人	参加者数 22 人 内子流のまち歩き「ねき歩き」は、普及、浸透に課題がある。 そのため、令和4 年度は観光協会で付加価値を加えたプランとして JR 四国とタイアップして、石畳地区で実施した(20 名)。同じく、石畳で観光協会が大洲との連携で訪日外国人の受入を実施(2 名)。観光協会と連携し、旅行商品としての「ねき歩き」のあり方を検討する必要がある。	△	町並・地域 振興課
	13	内子町の自然や食、伝統文化を 生かした観光振興 環境客数:116 万人 HP 訪問者数:19 万人 環境教育を取り入れた観光コース の開発:1 コース以上(R6 まで)	観光客 93 万人、HP 訪問者数 19 万人 目標値よりは下回ったが、コロナ沈 静化に伴い上昇傾向にある。環境教 育を取り入れた観光コースの開発 はできていないが、観光教育の先進 地である田辺市熊野ソーリズムビ ューローから講師に招き、インバウ ドや小中学校を中心とした取り組 みの勉強会を実施した。	○	
環境を 活かした観光や人材の受け入れ	14	グリーンツーリズムの振興 GT 協会関連の宿泊:8,000 人 GT 協会関連の体験:1,500 人	宿泊 3,346 人。体験 230 人 コロナの影響もあり特に上半期で 実績が伸びなかったが、下半期は 徐々に増加に転じている。ただし人 材不足が影響し最大収容人数が減 っていることもあり当初の目標達成 は厳しいと見込まれる。	△	町並・地域 振興課
	15	五十崎風博物館の有効利用来 館者数:2,200 人 体験講座参加者数:200 人	来館者 1,538 人、体験講座 500 人 来館者はコロナの影響もあり目標 達成とならなかったが、体験講座は 安価かつ短時間で行えるため現在 のニーズにあっており目標の 2 倍 以上の実績となった。	○	
	16	新深山壮整備と内子町山並保 全・活用計画 小田深山来場者数:2.2 万人 活動参加者数:3,000 人	来場者数 1.8 万人、参加者数 400 人 昨年度に比べ来場者数は増加傾向 にある。アウトドア等での自然への 関心が高まっていることが要因と して考えられる。 集客の増をさらに図り、地域経済へ の自然活用を、自然環境に配慮しつ つ積極的に行っていく。	○	小田支所
環境活動 を推進する 経済システム 検討	17	未利用材を活用した経済循環 (木こり市場プロジェクト) 木質バイオマス等の活用: 200t	実績:59 t /年 今年度は常連出荷者の体調不良、出 荷の無い日があり目標達成とはな らなかった。	△	農林振興課

景観や生態系に配慮した環境整備	18	景観行政 ー美しい内子に向けた取り組みー 景観フォーラムの開催：1回 広報紙による意識啓発や優良事例・協力企業紹介：1回 板塀や生垣の普及：1件	コロナ禍によりフォーラムの開催は見送りとなった。啓発記事1回。板塀等の普及は3件で目標以上に達成できた。しかし景観重点区域内において、届出者の理解を得ることが出来ずに社名公表に至った事例が発生した。	○	総務課
	19	小田川リバーサイド・ふれあい事業 イベント開催：4回 はらっぱ基金運営委員会：2回	コロナ禍によりイベント開催は小田川シクロクロスの1件のみであった。委員会は書面で2回開催した。	△	建設 デザイン課
	20	老朽危険空き家除去事業 実施数：20戸 事業費：16,000千円	空き家除却事業の要望44戸、事前調査の結果、補助要綱に合致した16戸を実施。事業費は11,821千円であった。	○	
	21	歴史的風致維持向上計画 (H31からの累積) 歴史的建造物の調査棟数：7棟 歴史的風致形成建造物の活用：3棟 伝統文化等の体験・WS：5回	調査：累積3棟、活用：累積1棟、体験3回 人員補充により調査や体験の機会は増加したが、歴史的風致形成建造物の活用に課題が残る。調査の機会はあるものの、修理費用と維持管理の問題から取り壊しを検討する所有者も多くなっている。引き続き推進体制を整えるとともに、価値あるものを後世につないでいくための具体的な仕組みづくりが急がれる。	△	町並・地域 振興課
景観や生態系に配慮した環境整備	22	歴史的環境の保全・活用 木嶋資料館上芳我邸来館者数：3.4万人 町並関連ワークショップ参加者数：400人	来館者20,178人、ワークショップ30人 コロナが収まりつつあるため実績は伸びつつあるが目標達成にはいたらなかった。今後は新規・リピーター獲得のため施設・展示の魅力化に努めたい。WSは大規模ではないが保存センターの三和土作り体験を実施した。	○	町並・地域 振興課
	23	学校跡地の活用 旧田渡幼稚園舎の活用：施設整備	予定通り令和4年4月29日より「たどビレッジ」をオープン。令和4年度は195名が利用している。	◎	小田自治 センター

基本政策 3) 健全な水循環の維持と利用

個別政策	指数・数値目標	取り組み内容	達成状況	担当部署
生活排水対策	24	えひめ AI-1 の啓発：年 1 回以上	町 HP に紹介ページを設け、効果や使用方法について継続的に周知している。また広報うちこ「くらしのエコロジー」でも取り上げている他、小学生のエコ見回りの際にサン・ラブにおいて取り組みの紹介などを行った。 また上下水道対策班において、上下水道や合併浄化槽の手続きの際にえひめ AI-1 の紹介を行った。	環境政策室
	25	下水道および合併処理浄化槽の普及率向上 水洗化普及率：88.4% 合併処理浄化槽普及率：57.3% 下水道および合併処理浄化槽普及率：70.4%	下水道水洗化率 89.1% 合併浄化槽普及率 55.7% 下水道・合併浄化槽率 66.2% 新築件数が少なく、設置・転換ともに伸び悩んでいる状況である。	上下水道対策班
源流と河川の環境保全	26	源流と河川の環境保全 河川美化一斉清掃：1 回 肱川流域河川清掃：1 回 水質検査（公共用水域・工場排水・最終処分場）：各 1 回	河川美化は、コロナ禍のため一斉実施の呼びかけは行わず、自治会・区ごとの実施判断として協力を依頼した。その他の活動は計画どおり実施することができた。	環境政策室
地域づくり 水を利用した	27	水を利用した地域づくり事業の推進 学習会・フィールドワーク：年 2 回	年内に 2 回（セミの抜け殻を探そう・夏季キャンプ）実施し、予定通りの進捗状況となっている。	内子自治センター

②暮らしプロジェクト

基本政策 1) ごみの減量

個別政策	指数・数値目標	取り組み内容	達成状況	担当部署
★廃棄物の減量	28	5R 推進事業 レジ袋辞退率：40% 食品ロス削減協力店登録数：15 店舗 再利用の仕組みづくり： モデル事業の調査・検討 5R 推進委員会：3 回 ごみ排出量：672g/人・日	スーパー・道の駅等におけるレジ袋辞退率:80%、食ロス削減協力店 3 店舗（増減なし）、5R 推進委員会 2 回（企画部会 6 回）、ごみ排出量 756g 再利用の仕組みづくりでは、こども用品のリユースについて関係部署に聞き取りを行い、モデル事業の協議を行った。	環境政策室
★廃棄物の減量	29	こども用品のリユース実施回数：13 回	リユース実施 13 回 毎月の実施と 3 月にはリユース週間を設けることで目標を達成した。今後も衣類のリユースに積極的に取り組み、利用者に喜んでもらえるような活動を継続したい。	こども支援課

廃棄物の適正処理	30	廃棄物の適正処理の推進 啓発活動：2 回以上 パトロール：12 回以上 ごみ出し支援の仕組みの構築：支援策の協議・調整	広報、HP、アプリで情報発信を行った。パトロールは公用車搭乗時に常に行っている。 ゴミ出し支援については令和 6 年度開始を目標に関連部署との協議を進めている段階である。	○	環境政策室
----------	----	--	--	---	-------

基本政策 2) 資源の地域内循環

個別政策	指数・数値目標	取り組み内容	達成状況	担当部署
地産地消の推進 (農の循環)	31	めざせ！自給率 100% チャレンジプラン 取り組み項目：2 項目	△	環境政策室
	32	学校における地産地消率（野菜・果物）：64%	○	農林振興課 ・ 農村支援センター
町産材の利活用 の拡大 (木の循環)	33	町産材の利活用事業 町産材利用木造住宅の建築促進事業補助金申請数：8 件	○	農林振興課
バイオマスの利活用 の拡大	34	バイオマスタウン構想の推進 木質ペレット：製造量 8,600 t・町内利用量 7,600 t BDF：製造量 1.7 万 L・利用料 1.7 万 L	○	環境政策室
	35	えひめ AI-1 の農業利用（竹堆肥） 土壌改良の実証実験	◎	農林振興課
	36	木質ペレットの利用拡大 木質ペレット消費量：1,000 kg	○	こども支援課

基本政策 3) 地球温暖化とエネルギーの地域内循環

個別政策	指数・数値目標	取り組み内容	達成状況	担当部署
★再生可能エネルギーの普及	37 再生可能エネルギーの普及事業（補助事業件数） 太陽光発電設備：5 件 蓄電池・燃料電池：11 件 木質バイオマス利用設備：1 件	蓄電池 8 件、燃料電池 0 件と一部で目標達成にはいたらなかった。来年度以降は項目ごとの補助枠の撤廃、補正予算対応などを行いより一層の普及に努めたい	○	環境政策室
	38 再生可能エネルギーの公共施設での設備導入（1 ヶ所）	PPA モデルでの導入に向けて事業者選定を行い、協議を開始した。国の補助事業の活用を予定しており、引き続き実施に向けて取り組みを継続していく。	△	
省エネルギーの普及	39 「緑のカーテン」事業 コンテスト応募数：20 件	苗の配布数自体は毎年順調に推移しており、緑のカーテンの取り組みは広がっていると思われるが、コンテストへの応募者が少ない状況が続いている。コンテストの実施や周知方法について見直しが必要である。	△	
	40 省エネの啓発活動 省エネ診断：年 1 回	昨年度に続き、省エネ診断は実施できなかった。 クールビズ・ウォームビズについては、全職員に周知し、継続して意識向上を図っている。クールシェア・ウォームシェアについては、コロナ対策で密を避ける必要があったことから、啓発を控えた。	△	適応策の検討
	41 適応策の検討 HP 等を通じた情報発信：1 回	研修会に参加して情報収集を行っているが、情報発信には至らなかった。	×	

③環境教育プロジェクト

基本政策 1) 子どもから大人まで切れ目のない学習活動の推進

個別政策	指数・数値目標	取り組み内容	達成状況	担当部署
(内)子どもの環境学習 子どもの独自の学び場	42 租税教室の実施 町内小・中学校で年間 8 回	コロナの影響もあり 5 回の実施にとどまった。今後については計画に沿って実施していきたい。	○	税務課
	43 自然体験学習の実践 小田深山宿泊体験参加児童数：120 人	コロナ禍で宿泊体験を行うことはできなかったが、各校単位で遠足型の体験活動を小田深山で実施し、環境学習を実施した。	◎	学校教育課

	44	子どもたちへの環境教育の実践 環境こども会議出席児童数：230人 環境副読本配布児童数：120人	こども会議出席児童数 251 人、配布児童数 105 人 GIGA スクール構想の進展により環境こども会議は中学生が現地、小学生は Web という形で開催した。副読本については予定通り小学 4 年生に配布をし、環境学習の資料として活用している。	◎	
	45	子どもの環境学習 学習会：10 回	学習会 10 回 一部中止となった会もあったが目標値は達成できた。令和 5 年度は中止された事業についても行えるよう取り組んでいきたい。	◎	こども支援課
	46	内子東自治センター管内での環境学習会事前観察会：2 回	実績 0 回 当初は実施予定で動いていたが、コロナのため予約がキャンセルとなり行うことが出来なかった。	×	内子東自治センター
	47	エコセミナー：年 11 回	年間 6 回実施 コロナ禍により宿泊・調理を伴う事業は見送った。その分は事業内容見直しを行い、代替事業を開催した。	○	大瀬自治センター
大人の環境学習会 (実践に結び付く環境学習会)	48	大人の環境学習の推進 学習会：年 3 回 情報発信：年 12 回	大人対象の学習会 8 回、「広報うちこ」暮らしのエコロジーにおける情報発信 12 回と目標以上に実施できた。	◎	環境政策室
	49	地域環境学習 各自治会における学習会など：年 1 回	内子自治センター研究大会の実施やしめなわ作りなどの子どもたちと高齢者の交流活動により、管内の自然や環境に関する学習を計 2 回実施し、目標以上の進捗状況となっている。	◎	内子自治センター
	50	東自治センター管内サロンでの環境学習会 管内 16 サロンのうち年 3 カ所以上	コロナ禍によりサロンに出向いて活動することができなかった。	×	内子東自治センター
	51	自治会環境学習 自治会と連携した学習会：6 回	実績 6 回 コロナのためフィールドワーク等では行えなかったが、各自治会で花いっぱい活動や河川清掃を行っている。	◎	大瀬自治センター
	52	センター報への環境学習記事掲載：年 2 回以上 パネル展示：年 2 回以上 小学生・教員対象の巨木巡り：年 1 回以上	記事掲載 5 回、展示常設、巨木巡り 0 回 クリーンデーをはじめ目標数以上に記事掲載を行った。またパネル展示は常設している。巨木巡りについては小学校と協議し、児童数減少のため隔年開催とした。	○	小田自治センター

様々な学習会と連動した 環境学習(ESD)	53	持続可能な社会づくりに向けた学習活動の推進 学習会：年1回以上	ESD コーディネーターと連携し、幼稚園・保育園、小学校等で、計17回と順調に推進できている。	◎	環境政策室
	54	ドイツ等環境保全先進国の取り組み紹介の機会提供 報告会：3回	アースデイ等に参加した際各国の環境への取り組み等の紹介や意見交換を行った。青少年海外派遣事業が再開次第、報告会も開催したい。	△	自治・学習課

基本政策2) 地域・自治会の環境活動の推進

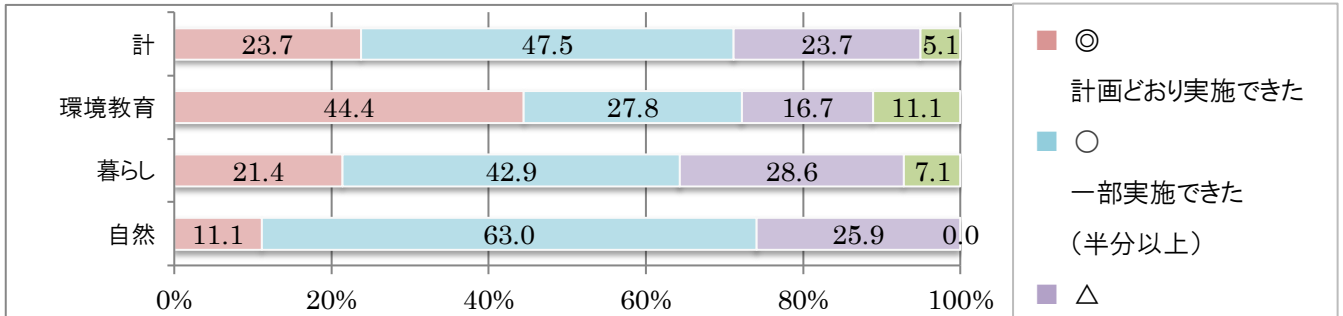
個別政策		指数・数値目標	取り組み内容	達成状況	担当部署
★環境モデル 地域づくり	55	環境学習会・支援:3団体以上、モデル地区1地区設置、ごみ出し支援策の実施	学習会は3団体で地球温暖化対策に関するないようで実施。その他については協議・検討を行っているが実施に至っていない。	△	環境政策室
	56	コミュニティビジネスの推進 補助支援団体(累計):4、事例紹介:年1回	支援団体は城廻自治会(花の苗販売)・中川自治会(よろずや中川の環境整備)の2団体となっている。事例紹介は1回と目標通り実施している。	○	自治・学習課
コミュニティビジネスの展開	57	城廻自治会による花の苗販売の支援 受注・配達件数:年25件	春苗19件・秋苗21件の注文受付、配達等の支援を実施した。継続して目標以上に実施できている。	◎	内子東自治センター
	58	コミュニティビジネス事業の普及拡大 啓発活動:年2回以上	小田地区自治会連絡会において、コミュニティビジネス事業の積極的な活用を呼びかけた。現在「よろず屋なかがわ」「猫の手」による地域での共同作業や「たどビレッジ」等が活動している。	○	小田自治センター

基本政策3) ネットワークづくり

個別政策		指数・数値目標	取り組み内容	達成状況	担当部署
★ネット ワークづくり	59	環境に関する活動組織、個人等のネットワーク強化 情報交換の場づくり: 改善・運用 環境会議:年1回	情報交換の場づくりは実施できなかった。環境会議は食品ロス対策をテーマとして開催した。	△	環境政策室

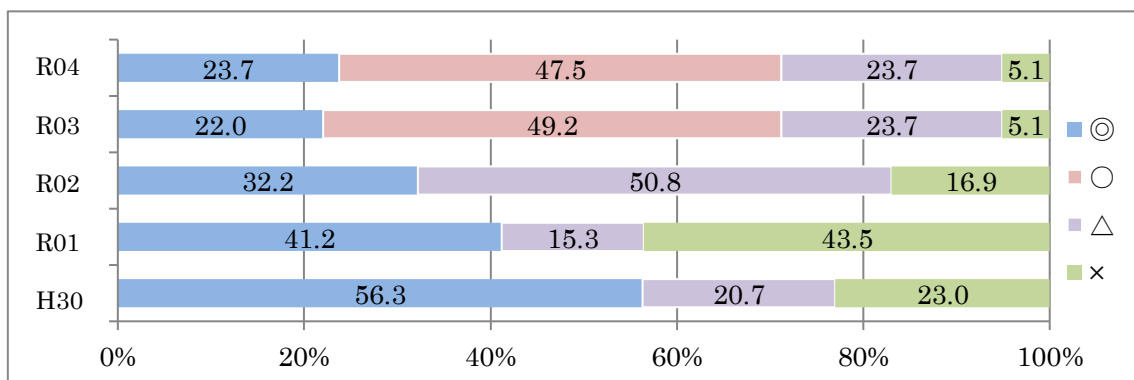
3つのプロジェクトにかかる独自目標達成状況

	◎		○		△		×		計	
		%		%		%		%		%
自然	3	11.1	17	63	7	25.9	0	0	27	100.0
暮らし	3	21.4	6	42.9	4	28.6	1	7.1	14	100.0
環境教育	8	44.4	5	27.8	3	16.7	2	11.1	18	100.0
計	14	23.7	28	47.5	14	23.7	3	5.1	59	



目標達成率の推移

		H30		R1		R2		R3		R4	
			%		%		%		%		%
自然	◎	24	61.5	16	41.0	9	33.3	4	14.8	3	11.1
	○							18	66.7	17	63.0
	△	4	10.3	7	17.9	15	55.6	4	14.8	7	25.9
	×	11	28.2	16	41.0	3	11.1	1	3.7	0	0.0
暮らし	◎	10	38.5	8	33.3	3	21.4	2	14.3	3	21.4
	○							8	57.1	6	42.9
	△	10	38.5	4	16.7	8	57.1	3	21.4	4	28.6
	×	6	23.1	12	50.0	3	21.4	1	7.1	1	7.1
環境教育	◎	15	68.2	11	50.0	7	38.9	7	38.9	8	44.4
	○							3	16.7	5	27.8
	△	4	18.2	2	9.1	7	38.9	7	38.9	3	16.7
	×	3	13.6	9	40.9	4	22.2	1	5.6	2	11.1
計	◎	49	56.3	35	41.2	19	32.2	13	22.0	14	23.7
	○							29	49.2	28	47.5
	△	18	20.7	13	15.3	30	50.8	14	23.7	14	23.7
	×	20	23.0	37	43.5	10	16.9	3	5.1	3	5.1



(2) 独自目標達成状況

NO	部署名		目 標	評 価	達成率
1	総務課	自然	移住希望者に対して、内子町の環境や景観に関する取り組みを紹介する。	移住相談の際に、環境や景観に関する取り組みを紹介した。	100
		暮らし	区長便の梱包には必ずコピー用紙包装紙などの使用済み用紙を利用する。	左記については目標どおり実施した。また以下2点に取り組んだ。 ○物品(文房具等)のストックコーナーを設置して管理を一括化することにより、無駄な購入を無くし、グリーン購入の促進を図った。 ○古いコピー用紙等を幼稚園・保育園の落書き用に提供している。	100
		環境教育	すべての地区集会所の指定管理者に対して、環境に配慮した取り組みに関する啓発を行う。	目標どおり実施した。	100
2	会計課	自然	2階のトイレ掃除当番と湯沸かし室当番の際には、必ずえひめA1-1を使用する。	掃除当番において、えひめA1を毎回使用した。	100
		暮らし	買い物の際は週1回以上マイバックを持参することとし、家族等にも啓発する。	課員全員がマイバックを所持し、買い物の際に活用している。	100
		環境教育	指定金融機関(愛媛たいき農協)の駐在職員(1人)にも理解いただき、年間を通して環境配慮の取り組みに協力願う。	指定金融機関の駐在職員にも、年間を通して環境配慮の取り組みを実践していただいた。	100
3	住民課	自然	窓口用封筒について、使用済み封筒にリサイクル封筒である旨を記載した紙を貼るなどして、再利用率80%以上を目指す。	目標通り、使用済み封筒をリサイクル封筒として使用した。使用頻度の高いA4サイズの窓口封筒は100%リサイクル封筒に切り替えることができた。また、小さいサイズのものも年度末からリサイクル封筒に切り替えることができ、目標を達成することができた。	100
		暮らし	課職員に対してマイバック持参を周知し、持参率80%以上を目指す。	定期的に周知し、概ね達成することができた。	90
		環境教育	職員研修に年1回以上参加し、職員の全体的なレベルアップを図る。	住民課は職員数も少ないため、業務の都合上参加できない職員もいたが、積極的に参加することができた。参加できなかった職員に対し、研修資料を回覧し、課全体で情報を共有した。	100
4	うちこ福祉館	自然	玄関横設置のえひめA1-1利用促進のため、週1回程度、トイレ掃除の際などに積極的に利用する。	玄関横設置のえひめ「A-1」利用促進のため、週1回程度トイレ掃除の際などに積極的に利用した。	100
		暮らし	機能回復訓練室南側の窓枠一面において、緑のカーテンを実施する。	機能回復訓練室南側の窓枠一面において、緑のカーテンを実施した。	100
		暮らし	わいわい喫茶で発生したコーヒーのガラは、すべて肥料として使用する。(最大11回)	わいわい喫茶で発生したコーヒーのガラは、すべて肥料として使用した。(今年度は5回実施)	100
		暮らし	健康講座、わいわい喫茶等の調理時に出た廃油は、すべてNPO法人環境NPOサン・ラブに回収を依頼し、リサイクルに努める。	コロナ禍で中止もあったが、開催時には、廃油はすべてNPO法人環境NPOサン・ラブに回収を依頼、リサイクルに努めた。	100

4	うちこ福祉館	環境教育	貸館利用者に環境配慮チェックシート記入を促し、記入率100%を目指すと同時に、環境配慮の実践を指導・徹底する。	貸館利用者に環境配慮チェックシート記入を促し100%記入率を達成した。環境配慮の実践を指導・徹底した。	100
		環境教育	城廻自治会のコミュニティビジネスに協力し、年2回、館周辺のプランターに植栽を実施する。	城廻自治会のコミュニティビジネスに協力し、年2回館周辺のプランターに植栽を実施した。	100
5	参川福祉館	自然	調理室やトイレ清掃の際には月2回「えひめAI-1」を使用する。また、館内及び館外計2か所の掲示板にパンフレットを掲示するとともに、「えひめAI-1」を玄関に常備し、来館者及び周辺地域住民にもさらなる利用を呼び掛ける。	調理室やトイレ清掃の際には月2回以上「えひめAI-1」を使用した。館内と館外の2か所にパンフレットを掲示するとともに「えひめAI-1」を玄関に常備し、来館者及び周辺地域住民に利用を呼び掛けた。	100
		暮らし	調理室の使用で出た生ごみは、全てプランターで堆肥化しごみの減量化に努める。	調理実習等で出た生ごみは、全てプランターで堆肥化しごみの減量化に努めた。	100
		暮らし	室温を下げて電気使用量の低減を図るため、事務室の窓全体に「緑のカーテン」を2m設置する。また、来館者及び周辺地域住民にも取り組みを呼び掛ける。	電気使用量の低減を図るため、事務室窓全部を対象に「緑のカーテン」を2m設置した。また、館報で取り組みを紹介するとともに、来館者及び周辺地域住民にも呼び掛けた。	100
		環境教育	館掲示板(大会議室窓ガラス)に、環境に関する資料を年2回以上掲示し、利用者及び周辺住民に啓発する。	館掲示板(大会議室窓ガラス)に、環境に関する資料を年2回以上掲示し、利用者及び周辺住民に対し啓発を行った。	100
		環境教育	館利用団体への説明会、健康教室、サロン、子ども会活動の際に各1回、内子町及び参川福祉館の環境に関する取り組み等について説明する。	館利用団体の人権学習会、健康教室、サロン、子ども会活動等で1回以上内子町及び参川福祉館の環境に関する取り組みについて説明した。	100
6	税務課	自然	所属する自治会(地域づくり担当職員の担当自治会も含む)の地域づくり計画書に掲げる自然環境保全活動や自然災害防災活動への参加率を100%にする。	河川清掃、水路清掃などに参加できた。	100
		暮らし	裏面利用が可能な用紙は、必ず裏面を印刷・メモ用紙等に利用し、用紙の節約に努める。	裏面の再利用可能な用紙を分別し、印刷・メモ紙等に利用した。	100
		環境教育	町内小中学校で開催する租税教室のすべてにおいて、「地球温暖化対策のための税(通称:環境税)」が設けられ、環境保護に役立てられている事実を児童・生徒に伝えます。(年5回予定)	計画通りの開催数で環境税について周知することができた。	100
7	保健福祉課	自然	車を利用する場合、軽自動車・ハイブリッド車の利用量を全体の80%以上にする。	保健福祉課管理車両の総走行距離のうち、軽自動車の利用が88.9%の割合となった。	100
		暮らし	機密文書を破棄するとき、シュレッダー処理率を90%以上にする。	認定審査会資料等の機密文書をシュレッダー処理しており、処理率90%以上の目標を達成することができた。	100

7	保健福祉課	環境教育	窓付き封筒を使用するとき、環境ロゴ等を記載した封筒の使用率を50%以上にする。	窓付き封筒の使用においては環境ロゴが記載されたものを使用した。	100
8	保健センター	自然	湯沸かし室(週1回)、調理室(使用時)の清掃の際にえひめA1-1を利用する。	湯沸かし室は、お茶当番となった人が実施している。 調理室は掃除のあと、流しの排水口に流している。	75
		自然	保健センター主での調理実習の際、旬の食材を利用し、地産地消に心がける。	野菜等が必要な調理実習の場合、からりやフジの直産売り場を見てから購入をしている。	100
		暮らし	コピー機のトレイに裏面使用可能な用紙を常時セットし、使用する。	手差しに常時裏紙可能用紙を入れ、印刷ができるようにし、手元資料等については、裏紙を使っている。	100
		環境教育	保健センター内に内子町環境基本計画に関するチラシを展示する。	保健センター内3か所に、掲示している。	100
9	こども支援課	自然	暑さ対策、寒さ対策として、すだれやカーテン等を活用する。職場に花や植物などの緑を置く。	暑さ対策、寒さ対策として、植物を植えグリーンカーテン、防寒シートを活用し、窓を開けて自然の風を取り入れるなどを行った。 また、職場に、花や植物を置いた。	100
		暮らし	年間を通じて、片面再利用用紙の箱を設置し、裏紙利用による印刷用紙の節約に努める。	片面再利用用紙の箱を設置し裏紙再利用を行った。 両面使用した用紙は再利用できるようシュレツダーした。	100
		環境教育	個別教室利用の保護者や子どもに対して節電節水の啓発を行う。	個別教室利用の保護者や子どもに対して節電節水について伝えた。	100
10	建設デザイン課	自然	生態系に配慮した河川環境の整備を民間団体と協働して年1回以上行うとともに、近自然型工法を推進することで、環境に配慮した工事を行う。	自治会や各種団体と連携して、ミニ小田川と郷の谷川にて除草等の清掃活動を行った(年3回)。また「はらっぱ基金」を活用し、観察学習として小田川生物調査を行うなど、環境に関して理解を深める活動を行った。	100
		暮らし	内子町産の木材使用を促進するため、3施設の公共建築物の木造化を推進する。	建築物の更新に関して、内子町産材を使用した木造建家の建築を行った。(平岡3部消防詰所・内子放課後児童クラブ)	66
		環境教育	新規の上下水道に係わる手続きの際には、すべてのお客様に対して「えひめA-1」の効果を紹介し、利用の促進及び消費量の増加を図る。また合併浄化槽を新設する場合に対しても同様とする。	上下水道及び合併浄化槽の手続きの際に、「えひめA-1」の説明を実施した。	100
11	環境政策室	自然	他部署の自然プロジェクトを1つ以上サポートする。	自治センターの自然観察会や歴史的建造物の活用事業等において、サポートを行った。	100
		自然	住民団体等と協働し、生き物観察会や保全活動を2回以上実施する。	内子未来づくりネットワークと協力し、生き物観察会などを5回以上実施した。	100
		暮らし	他部署の暮らしプロジェクトを1つ以上サポートする。	保育園や小学校のエコ見回り隊の実施について、サポートを行った。	100
		暮らし	ごみ処理に関する資料を作成し、年度末までに1回町民に配布する。(ゴミ収集日程表に添付)	12月の回覧でごみ収集日程表と一緒に全世帯へ配布した。	100

11	環境政策室	環境教育	他部署の環境教育プロジェクトを1つ以上サポートする。	小学校等においてエコ学習会の講師を務めたり、資料を提供したり、講師の紹介を行ったりした。	100
		環境教育	自治会や環境団体が参加する「内子発環境会議」を年1回開催する。	3月に開催し、ダンボールコンポストの作成体験などを実施した。	100
12	内子総合窓口センター	自然	サン・ラブ提供のえひめAI-1を年間50本以上住民に配り、環境保全に努める。	定期的な補充を行っており、多くの住民の方に利用していただいている。	100
		自然	内子分庁舎周辺の草木の適正な管理に努める。	除草や木の剪定を定期的に行っている。	100
		暮らし	NPO法人 環境NPOサン・ラブ提供のゴーヤを育てて、緑のカーテンを設置します。また、苗は住民へ配布し「緑のカーテン事業」を広く普及させることに貢献する。	分庁舎1階の窓際にゴーヤの緑のカーテンを設置できた。苗の補充が追いつかなくて住民の方へ配布できないことがあり、希望する方全員に配布できないのが課題である。	100
		暮らし	水道メーターを毎日チェックして、漏水などが無いか点検し、節水に努める。	漏水事例はなかった。	100
		環境教育	転入手続きの際、環境基本計画を配布し、説明します。また、ゴミの分別、ゴミの出し方などについても説明する。	全ての方に説明をしている。	100
13	町並・地域振興課	自然	町内の自然資源(小田川、小田深山、泉谷地区棚田など)を有効活用した行事などを開催することで、町内外の方に内子町の自然について知っていただく機会の創出に努める。	「親子たび」等の自然に親しめるイベント等を開催したほか、町内の自然を観光資源としてPRすることで町内外の方が内子町の自然に対して興味・関心を持っていただける機会の創出に努めた。	70
		暮らし	年間を通じて、始業前や昼休みなど業務に支障がない範囲で電気の消灯に努める。	始業前や休憩時、外出時の消灯に努めた。	100
		暮らし	年間を通じて、片面再利用用紙の箱を設置し、積極的な裏紙利用による印刷用紙の節約に努める。	裏紙を積極的に活用し、印刷用紙の節約に努めた。	100
		環境教育	4ヶ所の施設(内子座・商いと暮らし博物館・上芳我邸・風博物館)で環境に関する資料を掲示し利用者の意識啓発を行う。	節水に関する掲示を行い、意識啓発を行った。	100
14	八日市・護国町並保存センター	自然	木蠟資料館上芳我邸において、木蠟の原料となるハゼノキへの理解を深める展示や企画を年1回以上開催します。	展示は実施できなかったが、自治センターと共催で子供向けの学習会を実施した。	80
		自然	ハゼノキの実験圃場を整備・管理し、愛媛県固有種である「王櫨」の種の保存に努めます。	継続して管理、保存に努めている。	80
		暮らし	八日市・護国地区町並保存会で年4回以上伝統行事を再現し、行事の成り立ちや地域に根ざした暮らしについて理解を深めるとともに来訪者に伝えます。	コロナ禍で規模は縮小されたが、どんど焼きや観月会の代わりに町並み行灯のタベという催しなどを実施した。また、笹祭りの時期にあわせて各家において笹飾りの飾りつけを行った(希望者のみ)。	80
		暮らし	八日市・護国町並保存センターにおいて、伝統的建造物の環境負荷の低さを伝える展示を行います。	センターにて常設展示を行っている。また、古くなった表示については都度更新している。	80

14	八日市・護国町並保存センター	環境教育	学校や来訪者を対象とした木蠟や町並み保存に関わる体験学習を年2回以上実施し、内子の製蠟業の歴史と環境負荷の低い木蠟や伝統的建築物の良さを伝えます。	毎月定例の木蠟についてのワークショップ、内子中学生による蠟しぼり体験学習を実施した。	80
15	農林振興課	自然	「木こり市場プロジェクト」を推進して、適切な森林保全と地域活性化を目指すために木こり市場での木材取り扱い量の前年度比増加を目指す。	木こり市場プロジェクトの年間取引量200tの目標に対し、59tの実績となった。	30
		暮らし	廃プラスチックおよびビニールをJAと協力して回収し、リサイクルを推進するために、廃プラスチックの取り扱い量の現状維持を目指す。	回収日前日に大雪が降り、例年通りとはいかなかったが、後日に別途回収日を設け、現状維持することができた。	100
		環境教育	農業委員会定例会で年1回以上は啓発資料を使って学習会を開き、環境問題について学習する。	2/27日に農業委員会定例会において、「特定外来生物とは」のチラシを配布し、有害鳥獣等の外来生物の学習会を開き、見つけた時には連絡するようお願いした。	100
16	学校教育課	自然	小田深山宿泊体験(町内小学5年生対象)を実施し、小田深山の自然について体験学習し、学習した内容を各家庭まで広げていく活動を行う。	本事業は複数校で連合体を形成し小田深山での集団宿泊活動を実施しているが、令和4年度においては新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、内子連合は各校単位でふるさと学習を実施した。大瀬小田連合、五十崎天神連合は従来通り実施。	80
		暮らし	ノーマイカーデーを月1回以上実施する。	通勤経路が遠方にある職員が多いため、月1回の実施は困難であった。懇親会がある日などには乗り合わせに努めた。	50
		暮らし	年1回、環境子ども会議の実施により、町内外に情報を発信し、内子町の取り組みを紹介することによって、環境教育による交流を図る	昨年度の環境子ども会議は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により実施できなかったが、本年度は内子町環境政策室と連携し、R5.2.8に講師を今治城 自然科学館 村上圭司 館長に依頼し、「人間の活動と絶滅した動物たち」と題して、縮小 & Web併用にて実施した。町内小・中学校から総数で251人が学習した。	80
		環境教育	環境副読本の活用を図り、学級便り等で家庭への情報発信するとともに、研究を深めていく。	環境副読本は各学校にて行われるよう新4年生全てに配布を行った。環境に関する情報発信については、学校単位で対応した。	100
17	自治・学習課	自然	環境・景観保全や自然を生かした事業など、自然と共存していくための地域づくり事業実施を、自治センターを通じて年1回以上各自治会へ呼びかける。	各自治センターの管内連絡会において、それぞれ呼びかけを行った。	100
		暮らし	開催する会議にて、可能な場合はマイ箸マイコップ、リユース食器、または備品使用を推進する。(推進率30%)	コロナ対策により飲食を伴う会議の開催がなかった。	-

17	自治・学習課	環境教育	青少年海外派遣事業を通じて、ドイツなどの環境保全先進国で得ることができる取り組みを紹介する機会を年1回以上つくり、町内への拡大を図る。	青少年海外派遣事業は中止となったが、「ゆうていあ」10月号でドイツの環境先進国の取り組みを紹介した。	100
18	議会事務局	自然	タブレットの導入により極力、紙の印刷を控えます。	定例会、委員会等の議案書、資料はタブレットで提供をした。しかし、一部議員には紙資料を提供した。	90
		自然	年間を通じて議員への資料提供はエコ活動に協力していただくため、極力両面印刷物を配布します。	両面コピーで議員に配布した。	100
		暮らし	会議の時のお弁当は、すべてリユースできる弁当箱のある業者への依頼を続けます。	すべてリユースできる弁当箱のある業者に依頼した。	100
		環境教育	議場見学に来る小・中学校の生徒に対し、課の環境に関する取り組みを1回以上説明します。	クイズの中に環境の問題を出題し、環境に少しでも関心をもってもらえるようにした。課の取り組みも紹介した。	100
19	小田支所	自然	小田深山の緑化推進(広葉樹植栽の実施)・年1回以上	達成できた。	100
		暮らし	住民へのグリーンカーテンの推進と小田支所でのグリーンカーテンの実施・苗の配布 50本以上	達成できた。	100
		暮らし	えひめAI-1の配布・年間150本以上	多数の配布はできたと思われるが、支所にて自由持ち帰りとしているため、150本のカウントはできていない。	80
		環境教育	全ての転入者へ環境基本計画の周知・説明・資料配布	転入手続きの際は転入者も慌ただしく、環境基本計画周知まではできなかった。	20
		環境教育	全ての転入者へごみの分別の周知・説明・資料配布	達成できた。	100
20	内子保育園	自然	子どもと一緒に作った腐葉土を、年2回の土づくりに利用し、園の畑での野菜作りに継続して活用します。園の畑で栽培した野菜を使ったクッキングを年2回行います。	継続して腐葉土を活用している。感染症対応として、クッキングを行うことができなかった。	80
		自然	3期に1回以上、小田川や町並みへ散策に行き、自然観察や清掃活動に努めます。	感染状況を鑑みながらの、3期に1回以上散策に出かけ、自然観察や清掃活動に取り組むことができた。	100
		暮らし	年回10回以上『クリーンデイ』を設け、園の美化に努めます。その際、集めた草葉は腐葉土作りに活用します。	積極的に行うことができたが、10回には届かなかった。	80
		暮らし	アルミ缶・廃油の回収日を月2回設け、地域や保護者に呼び掛けて回収する。	園だよりや地域に向けた便りの中で呼びかけながら、継続して行うことができた。	100
		環境教育	エコに関する集会を年5回以上開催し、楽しみながらエコ活動を推進する。	感染対策の観点から、積極的な集会ができなかったが、クラス毎の活動の中で、エコ推進を行うことができた。	80
		環境教育	野菜や草花の世話や栽培、自然探索や清掃活動などを通じて、子どもの気付きや成果を年1回以上報告する機会を設けた。	クラスの中で、積極的に行うことができた。	80

21	五城保育園	自然	畑で野菜を栽培し、園児と一緒に収穫・調理したり、給食の食材に活用したりするなど、年8回以上、食育の時間を設ける。	園児たちと一緒に畑や田んぼで野菜や米を栽培し、収穫した野菜を給食材料に利用し、食育に繋がった。内子町の栄養士さんに来園していただき、三食食品群や手洗いの仕方、郷土料理等について、年長児が学んだ。	90
		自然	朝顔やゴーヤ、夕顔、ふうせんかずら等で「緑のカーテン」を15㎡作り、電気代の削減に努める。	朝顔やゴーヤ等で「緑のカーテン」をつくり、ある程度は影ができ涼しくなったが、昨年に引き続き猛暑だったため、電気代の節電には至らなかった。	80
		自然	夏場のプールで使用した残り水は、畑や花壇の水やりに毎回利用し、水道代の削減に努める。	プール遊びで使用した水は、毎回、畑や花壇の水やりに利用し、水道代の削減に努めた。	100
		暮らし	家庭や給食室で使用した廃油を回収し、廃油石鹸をつくり、希望者に配布する。	家庭や給食室で使用した廃油を回収し、廃油石鹸をサンラブさんからいただき、保護者や希望者に配布したり、園内でも活用している。	90
		暮らし	月1回「みんなできれいデー」として園児と共に園庭の草引きや石拾い、散歩時のゴミ拾いなどをする。毎月、実施日には反省や評価を記入して、目標達成に努める。	月1回「みんなできれいデー」の日を設け、園庭の草引きや石拾いなど園児たちとおこなった。実施日には反省や評価を記入し、目標達成に努めた。	90
		暮らし	床暖に使用するペレットの使用済み灰を畑にまいて肥料にしたり、家庭菜園をされている希望者に配布したりして、すべてリサイクルする。	床暖に使用するペレットの使用済みの灰を畑に撒いて肥料にしたり、家庭菜園をされている希望者に配布したりして、リサイクルに努めた。	80
		暮らし	家庭で不要になった物は、保護者と連携を図り、地域の内子東自治センターまつりやフリーマーケットに出店することで資源の循環を目指す。	今年度は、うちこのフリマに保護者会がくじ引きを出店し、保育園の夏祭りごっこ等の景品にしていた物をくじ引きの景品にして資源の循環を目指した。	80
		環境教育	園用「エコだより」を年2回配布して、廃油やペットボトルの蓋などをリサイクルしている状況を知らせ、園だけでなく家庭でもリサイクルに協力していただく。	エコだよりを年2回配布し、廃油やアルミ缶、ペットボトルの蓋などのリサイクル状況を知らせ、リサイクルに協力していただいた。	90
		環境教育	年長児が、エコ見回り隊となり、週1回（金曜日）に園内の各クラスの水、電気、ミックス紙を見回り確認し、その活動の様子を「エコだより」や掲示板、ドキュメンテーション等で年2回以上紹介する。	年長児がエコ見回り隊になり、週1回、園内の水、電気、ミックス紙をチェックし見回る。活動の様子をエコだよりやドキュメンテーション等で知らせ、保護者への啓発活動とした。	90
		環境教育	年長児が、内子東自治センターへエコ見回り隊へ行ったり、園外へ散歩に行く際は落ちていたゴミや空き缶などを拾い、持ち帰り分別したりして、エコに対して興味や関心をもつ機会をつくる。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外部へのエコ見回りへ行くことは控えた。園外散歩の時には、ゴミ拾いを心がけ、園に持ち帰り、分別してエコに関して興味、関心が持てるようにした。	80
22	大瀬保育園	自然	年5回以上自然とかわり、生き物・植物・気候などに触れた活動を通して自然の大切さを知り、遊びや生活に活かす。（川遊び・散歩・おいのこ薬すば作りなど）	川遊び、おいのこ作りなどの行事はコロナの影響により中止となったが、鮎の放流や散歩、川の話などに参加することで自然や生き物の大切さを知ることができた。	80

22	大瀬保育園	暮らし	友だちと一緒に野菜を作り、食べることで、日頃携わっている人々や食物に対しての感謝の気持ちを持つ。	スイカ、きゅうり、トマト、オクラ、パプリカ、さつまいもグリーンピースなどの野菜を共に育てた。自分たちの育てた野菜を食べることで、育つ過程を知ったり、大変さや楽しさを感じることができた。	80
		暮らし	雑草や落ち葉、終わった野菜などでたい肥作りをする。作ったたい肥を使って植物を育てる。	「元気な土を作ろう」と題して園の裏庭でたい肥作りを行った。そのたい肥を畑に混ぜて野菜などを育てることができた。	80
		暮らし	ゴーヤやパッションフルーツを育てて、グリーンカーテン作りをする。(園のたい肥を使う。)	乳児・幼児のテラス前やブランコの横にゴーヤやパッションフルーツのグリーンカーテンを作った。	80
		環境教育	月1回エコの日を設定したり、毎月の誕生会にテーマ(食育・エコ・人権)を取り入れたりしてSDGsを意識した取り組みを行う。	園庭の草引きをしたり、焼き芋での薪を集めたり、ごみの分別の話をしたりして取り組んだ。エコ見回りは1度しかすることができなかった。テーマを意識して誕生会を行った。	70
		環境教育	エコに関する取り組みを年3回以上掲示やおたよりで知らせたり、子どもと一緒に活動記録を作成したりする。	テーマを決めて行った誕生会の様子等写真を入れて掲示した。エコだよりを1回発行した。	70
23	五十崎こども園	自然	小田川や竜王公園での体験活動を通して、身近な自然や生き物にかかわる。	各年齢のクラスごとに散歩や遠足等を通して虫探しや花探し、木の実拾いなど季節ごとに自然に触れ、興味を持つ姿が見られた。	100
		自然	年間を通して、えひめAI-1を水やりや掃除等で使用する。	日々のトイレ掃除にて排水溝等にえひめAI-1を使用していくことができた。水やりでは子どもと一緒にじょうろに水とえひめAI-1を混ぜ水やりをすることができた。	90
		暮らし	年間を通してペットボトルキャップやアルミ缶の回収を呼びかけて、保護者の協力を得ながらエコ活動に取り組む。	毎年実施しているということもあり、キャップやアルミ缶の回収にたくさん協力してもらうことができた。回収していることを知らない保護者もいたので伝えていけたらよいと感じた。	90
		暮らし	子どもたちと一緒に部屋の電気や水道の無駄遣いを確認し、大切に使う。	日々電気や水の使い方について伝えていくようにした。また、エコ見回り隊を行い、内子町役場と共生館にて水や電気の確認を行う。園内だけでなく園外活動も取り入れることで興味を持って取り組む姿が見られた。	100
		環境教育	年に2回保護者や地域の方に向けてエコだよりを発行する。	エコだよりの発行が年に1回となってしまうためエコに対する意識を持ってもらえるよう工夫が必要だと感じた。	60
		環境教育	月に1回以上絵本や紙芝居を利用し、子どもたちがエコに興味を持てるようにする。	集まりの際に、絵本や紙芝居を読み聞かせその内容について話し合った。その中でエコについて知ったり考えたりする姿が見られるようになった。	90

24	くるみ保育園	自然	戸外活動時に自然物を収集し、室内に飾ったり飼育したりして遊びに活用し親しめるようにします。	散歩やミニ遠足に行った際、自然物(木枝や草花)を収集したり、採ってきた草の名前を図鑑で調べたり生き物を飼育したりして遊びに活用することができた。	100
		自然	子どもたちと一緒に夏野菜を育て、収穫した野菜は給食室等で活用します。	年長児で話し合って植える夏野菜を決め、苗を植えた後から水やりや草ひきなどの世話をし大切に育てたり成長を楽しみに観察したりする姿が見られた。採れた野菜は給食で提供したり家庭に持ち帰りクッキングをしたりして活用した。	100
		自然	ゴーヤ、夕顔、朝顔等を子どもたちと一緒に育て、グリーンカーテンを作り、日よけとして活用します。	ゴーヤ、朝顔、風船カズラを子どもたちと一緒に育て、グリーンカーテンとして活用できた。	100
		暮らし	廃油、アルミ缶、ペットボトルキャップの回収を月1回実施します。	月1回ということではなく、随時、家庭でたまったら、園まで持ち寄ってもらっている。	100
		暮らし	給食で出た野菜や果物の皮はすべて、近所の農家の方に肥料として提供し、活用してもらいます。	給食で出た野菜や果物の皮のすべてを近所の農家の方に肥料として提供している。	100
		暮らし	毎月15日を「エコスマイルデー」とし、異年齢児の縦割りグループで園庭の石拾いや草引き、ミニ小田川へ散歩に出かけ、自然に触れたりゴミ拾いをしたりします。	コロナ感染防止のため、毎月の実施はできなかったが、コロナの状況に合わせてその時々で工夫をしながら園庭の石拾いや草引きをしたり、廊下や窓の清掃等を行った。	100
		環境教育	「エコだより」を年に2回以上発行し、回収についての情報を発信したり、エコ活動の様子を知らせたり、保護者や地域への啓発につなげます。	「エコだより」は1回しか発行できなかったが、縦割り保育でのエコ活動等、クラスの様子として保護者に伝えることはできた。	80
		環境教育	散歩に出かけ、地域の産業や地域の人々の生活の様子、四季折々の自然などに関心が高まるような保育を心がけます。	散歩にはよく出かけ、自然に触れる機会は多かったが、地域との交流に関してはコロナウィルス感染防止のため、予定通りには実施できなかった。	70
25	内子児童館	自然	職員1人1回以上、水生生物の観察会などの自然観察会に参加する。	・7/25内子放課後児童クラブの事業として、小田深山で水辺の生き物観察を実施、自然に触れ合うことができた。 ・7/27内子町浄化センターへ見学に行き、生活排水の浄化の過程を見たり聞いたりした。また、水生生物観察会後だったため川の水や生き物について関心がさらに高めることができた。今後は身近な知清河原などで行ってみたい。	100
		自然	トイレや流しには週1回、植物への灌水には適宜「えひめAI-1」を使用する。	月に一度、流しへえひめAI-1を使用した。	80
		暮らし	年間を通して施設周辺のクリーン活動を行う。	悪天候を除き、始業前に施設及び周辺道路などのクリーン活動を実施した。	100
		暮らし	年間を通じてペットボトルのキャップ回収を行い、児童館便りにて年1回以上回収報告を掲載する。	年間を通して、地域の方、町内の幼稚園、保育園、学校などからキャップの提供を受け、世界の子供たちにワクチンを寄付できた。	80

25	内子児童館	環境教育	エコに関する“エコなこと”を、児童館や児童クラブのお便りに、年1回以上記載する。	・内子児童館だよりに、実施しているペットボトルキャップの収集活動(ワクチンとの交換)を記載する。また、自然物や廃材を使った事業の写真を掲載した。 ・クラブだよりに、花や野菜の栽培の様子を掲載した。	80
		環境教育	子どもたちと一緒に年3回、野菜や花の栽培を行う。	・児童館内の菜園にて四季の農作物を植付、収穫、食すなど、労作活動を行った。また、玄関前には花の栽培を行った。その様子を館だよりやクラブだよりに掲載した。	90
26	五十崎児童館 きらり	自然	自然物、廃材、廃品を使用した製作活動を年間3回以上行う。	①笹飾りの花紙を再利用したハガキづくりを行い、介護施設へ手紙を書いて贈った。 ②廃材を利用した木工製作体験 ③児童館事業での廃材利用や児童クラブ室に廃材を設置し、子どもたちが自由に製作を出来るように準備し自由に活動できる場を提供。	100
		自然	年間を通して野菜の栽培をおこない児童クラブのおやつとして使用する。	じゃがいも・さつまいも・きゅうり・ゴーヤ・オクラを畑やプランターで栽培し、児童館での料理教室や児童クラブのおやつに使用することが出来た。	70
		暮らし	ゴーヤ、ふうせんかずら等でグリーンカーテンを20㎡以上作り、節電につなげる。	きゅうり・ゴーヤでグリーンカーテンを20㎡以上作ったが、コロナ感染対策により換気等を実施するため、節電はできていない。	70
		暮らし	年間を通して月1回以上のクリーン活動をおこない、近隣の公園清掃やゴミ拾いをする。	近隣公園の清掃や児童館周辺の清掃、ゴミ拾いを月1回行った。	70
		環境教育	アルミ缶・ボトルキャップ・廃油・廃品の回収を続ける。また、年間1回以上きらり通信にて知らせたり、掲示したりして地域住民にも協力をお願いする。	アルミ缶・ペットボトル・廃油の回収は年間通して実施した。きらり通信にて協力願いを実施。2回掲載	100
		環境教育	児童向けの環境に関する学習会や体験学習、見学会等を年間2回以上行う。	①内子町女性林研グループや内子町森林組合の指導により、森林の必要性や整備等について学習し、間伐材や建築廃材を使った木工製作体験を実施した。 ②内子町の下水処理施設を訪問し、生活排水がどのように処理されているかエコ学習を実施した。	50
		環境教育	児童向けの環境に関する学習会や体験学習、見学会等を年間2回以上行う。	①内子町女性林研グループや内子町森林組合の指導により、森林の必要性や整備等について学習し、間伐材や建築廃材を使った木工製作体験を実施した。 ②内子町の下水処理施設を訪問し、生活排水がどのように処理されているかエコ学習を実施した。	50
27	内子子育て 支援センター	自然	施設周辺の清掃を週3回以上行う	基本的に毎日清掃を行った。	100
		自然	カメの水替え、花や野菜の水やりにえひめAI-1を利用する	毎回ではなかったものの、利用した。	80
		自然	ゴーヤのグリーンカーテンを設置する	職員、施設利用親子とともに水やりや収穫を行いコンテストにも参加。賞を受賞した。	100
		暮らし	利用者にペットボトルキャップの回収を呼びかけ、年間6キロの回収に努める	事業等機会をとらえて声掛けを行った。	80

27	内子子育て支援センター	暮らし	来館者親子に呼びかけ、子供用品のリユースの仲介を行う	子ども服、用品のリユースを毎月実施。必要に応じて柔軟な対応もした。	100
		暮らし	グリーンカーテンを再利用し、クリスマスリース作りを行う	リース作りの講習会を実施し、ゴーヤの蔓を再利用した。	100
		環境教育	乳幼児学級の保護者を対象に環境学習会を年1回以上行う	新型コロナウイルス感染症の影響で事業を実施できなかったため、計画していたが開催できなかった。	-
		環境教育	親子教室で内子産の野菜や旬の食材を使った調理活動を年1回以上行う	講師の内子町管理栄養士の指導で実施。	100
		環境教育	野菜や草花を育て来館者親子に栽培を身近に感じてもらい、収穫、試食する体験を提供する	夏野菜を中心に栽培を行い、感染症の状況を見ながら可能な時期には収穫したものを施設利用者に試食してもらった。試食できにくいものは持ち帰ってもらった。	100
28	内子幼稚園	自然	環境政策室の方やゲストティーチャーの方を交えて散歩に行く。	環境マイスターを呼び、秋の虫探しを実施した。身近な自然の中におもしろい虫がたくさんいることを知り、自然や生き物を大切にしようとする気持ちにつながった。	70
		自然	自然や生き物に触れ、親しみをもてかわる。	生き物の飼育を通して、命の大切さや愛情をもって世話をすることができた。	100
		暮らし	廃材や空き箱を製作や保育活動に利用する。	日常の遊びや町内の笹飾り作りなどで廃材を利用し作ることを楽しめた。	100
		暮らし	牛乳パックのリサイクル	牛乳パックを利用してハガキ作りを行い、転園した幼児に作ったハガキを利用して手紙を書いたりした。	60
		環境教育	年間2回以上エコだよりを発行し、家庭でも意識してもらうようにする。	年に3回エコだよりを発行したり、SDGsビンゴを作り家庭で子どもと実施してもらうようにした。	100
		環境教育	年間2回以上エコ集会を行い、エコやリサイクルに意識がもてるようにする。	今年度は、SDGsについて子どもたちに話をし、エコ見回りなどを通して、ゴミの分別や水、電気の無駄にしないよう意識を持つことができた。	80
29	小田幼稚園	自然	地域の方と連携して、小田の自然に親しむ活動を年1回以上実施する。	かじかとりを通じてゲストティーチャーや高校生との交流を楽しむことができた。また、昨年度行った麦の成長を見に行かせてもらい、継続した体験活動ができた。	100
		自然	月に1回程度散歩に出掛け、自然に触れたり観察したりする。	行事が多い月などはなかなか散歩に出掛けることができなかった。出掛けたとしても、図書館に絵本を借りに行くだけなど自然とかかわる機会が設けられなかった。	70
		暮らし	廃材の回収を家庭に呼びかけ、子どもたちの廃材製作に利用する。	不足している廃材を持って来てもらえるよう呼びかけた。回収した廃材は子どもたちが自由に使いながら様々な製作を楽しむことができた。	80
		暮らし	給食の牛乳パックは開いて洗い、すべてリサイクル回収に出す。	欠席者の分は出すことができなかったが、給食で飲んだ分は、子どもと一緒に牛乳パックを開いて洗ってリサイクルに出すことができた。	95

29	小田幼稚園	暮らし	ペットボトルキャップ回収を家庭に呼びかける。	ペットボトルキャップを回収する箱を、子どもが楽しみながら入れられる容器に変えたことで、家庭から意欲的にキャップを持ってくるようになった。また、園だよりを通じて、どのくらいの量が集まったかを知らせるようにした。	90
		環境教育	日々の保育の中でエコに関する絵本や紙芝居の読み聞かせを実施する。	エコに関する紙芝居を購入し、各クラスのお集まりで読み聞かせを行った。	80
		環境教育	手洗いうがい時に水の使い方についてその都度伝えていく。	手洗い場に「止め忘れ注意」と「出しすぎ注意」のイラストを用意したり、様子を見て、水の使い方について知らせるようにした。	80
		環境教育	園でのエコに関する活動について園だよりなどで知らせる。	廃材やペットボトルキャップ回収について園だよりを通じて呼びかけた、もう少し回数を増やしていけるとよい。	80
30	内子小学校	自然	水に関する学習を行い、節水について考え、手洗いうがい・歯磨きの時に節水に心掛ける。	各学年の学級担任の呼びかけ、歯磨き時の見守り等により節水に心掛けることができた。	100
		暮らし	アルミ缶、ペットボトルキャップ集め週間を月1回設定し、保護者や地域にも働きかけ、年間を通して回収を行う。	月1回のアルミ缶、ペットボトルキャップ集め週間を設定したり、回収場所を体育館ピロティにしたりすることで年間を通して安定して回収することができている。	100
		暮らし	PTAによる標準服、体操服等のリユース活動を参観日を利用して行う。	PTAによる標準服、体操服等回収を行った。令和5年度にリユース活動を行う(2年に1度実施している)。	-
		環境教育	小田深山での活動や環境子ども会議に参加したり、内子町の自然や環境について学習したりすることで、内子の環境への理解を深める。(4・5年生)	・自然に関する講演を聞くことで、自然を守ろうという意識が高まった。 ・小田深山での自然体験活動や水生生物調査、クリーンセンターや浄水場の等の見学を通して、内子の環境について考えることができた。	100
		環境教育	外部講師と連携しながら環境学習を進める。	・学校運営協議会の地域コーディネーターの協力を得て、学習内容に合わせた外部講師を紹介していただいている。また、地域コーディネーターとは、学校で定期的に打合せを行っている。	100
31	大瀬小学校	自然	ペレット床暖房の稼働により、灯油の使用量を減らす。	ペレット床暖房の稼働により、灯油の使用量がほぼゼロであった。	95
		暮らし	ゴミの分別、廃棄物の適正な処理に努める。	ゴミの分別等、適正な処理ができた。	100
		環境教育	総合的な時間や社会科をとおして、リサイクル等に関する理解を深める。	地域・家庭の協力をいただき、アルミ缶の回収を行っている。	95
32	立川小学校	自然	校内の落ち葉収集を週に3日以上実施し、校内での腐葉土としての利用を促進する。	年間を通じて週平均3日以上実施することができた。例年よりも落ち葉や草の量が多く、腐葉土として利用できた。	90

32	立川小学校	暮らし	アルミ缶回収を広く地域にも呼びかけ、年間150kg以上のアルミ缶回収を目指す。	今年度もアルミ缶回収だけでなく、古紙の回収も呼びかけて地域の方に協力をしていただいた。今年度は、アルミ缶約340kg回収できた。	100
		環境教育	森林や川等の自然に関する体験学習を年間1回以上実施する。	稚鮎の放流や椎茸植菌、バードウォッチングなど環境に関する体験学習を行った。学期に1回以上実施することができた。	100
33	石畳小学校	自然	里地・里山の再生のため、全校児童が地域の方々の協力を得て、休耕田を利用した米作り、そば作りを行う。収穫後は餅をついたりそば打ちをしたりして、年6回以上地域の方々との交流を図る。	コロナウイルス感染症の影響で3年間でできなかった田植えを体験することができた。稲刈り、餅つきも予定通り実施した。そば作りについては、種まき、収穫、脱穀、そば打ちを、地域の方々との交流を図りながら行うことができた。	100
		自然	6月のプール使用前に、えひめAI-1をプールに4回程度積極的に活用する。	6月中旬からの水泳の課外練習や授業、夏季休業中のプール開放に向けて計画的に活用することができた。	80
		暮らし	校報などを活用して、定期的に保護者・地域の方々に呼びかけを行い、アルミ缶回収を実施する。	保護者地域の方々に積極的に回収を呼びかけ、協力していただいた。年間で約300kgのアルミ缶を回収することができた。	100
		暮らし	年間を通して植物栽培を行い、自然に感謝する心を育てる。	1学期には様々な植物を育て、きれいな花に囲まれて自然に感謝する心を育てることができた。10月からは校舍改修工事が始まり、学級園が使えなくなったため、植物を育てることができなかった。	50
		環境教育	総合的な学習の時間や環境子ども会議などを活用して環境問題について考える時間を設定し、分かったことをまとめたり他の児童や家族に伝えたりする。	環境問題について総合的な学習の時間に調べたことをまとめ、他の児童や家族に学芸会で伝えることができた。環境子ども会議では講師の方のお話をしっかりと聞き、エコについてしっかりと学ぶことができた。	80
		環境教育	毎月の学校便りやホームページを活用して、アルミ缶回収やクリーン愛媛運動への参加、環境教育の実践など、本校の取組を知らせる。	クリーン愛媛運動への参加について、ホームページで活動の様子を伝えた。アルミ缶回収については、年度末の校報で、協力していただいたお礼を伝えた。	80
34	五十崎小学校	自然	各学級園や児童玄関前のプランターを計画的に利用し、年間を通して児童が植物等に触れる環境を整える。	学年の学級園等の栽培計画は、学習教材のため夏場を中心とした活動であったが、計画的に行うことができた。児童玄関前のプランターや花壇等は、年間を通じて草花を栽培しており、校内の美化委員の児童も水やり等の活動に常時参加することができた。	100
		暮らし	週1回のアルミ缶回収を継続するために、児童を通しての呼び掛けや、家庭・地域への啓発を行う。	校内では毎週2回、美化委員が中心になり回収の呼び掛けを行った。またコミュニティースクールの取組として、地域にも回収の協力を呼び掛けた。昨年度から、地域全体への呼び掛けによって回収量が増加しており、地域全体の一体感のある活動を継続して行うことができた。	100

34	五十崎小学校	環境教育	生活科や総合的な学習の時間に取り組んだ環境教育の実践を、学校便りやホームページ等で年間3回程度紹介し、家庭や地域に情報を発信する。	自然環境に関わる学習活動について、学年通信や学校便り等を通じて情報発信を行った。また、コミュニティースクールの取組については毎月通信を作成し、地域に回覧した。学習活動やアルミ缶回収活動など、地域全体にお知らせする機会を持つことができた。	100
35	天神小学校	自然	全ての学年で、積極的に校外活動を行い、自然と触れ合い自然に親しむ場を設ける。	低学年は小田川の川原での活動、高学年は徒歩で御祓地区へ出掛けての活動など、全校児童が、地域に出掛け自然と触れ合うことができた。低学年では、四季を通して、校外での自然観察を行った。	80
		暮らし	保護者や地域にアルミ缶回収を呼び掛け、アルミ缶を売却し、その収益で花の種や野菜などの苗を購入し、子どもたちが世話をする。	アルミ缶回収は、保護者にも地域にも根付き、たくさんの回収を行うことができた。収益で、肥料や花の種・苗を購入し環境美化に努めた。	80
		環境教育	ゴミの分別の学習を行うことで、学校生活においてゴミをきちんと分別できる体制を作る。	教室でのゴミの分別は、できている学級とできていない学級があった。	70
		環境教育	環境学習に取り組んだことを、ホームページや学習発表会などで積極的に外部に発信する。	総合的な学習の時間に、SDGsや環境問題について学習した。実際に見学に行ったり、インターネットを使って調べたりしたことを、学習発表会やホームページ等で外部に発信した。	100
36	小田小学校	自然	学校園での野菜や花の栽培、収穫など、上半期・下半期にそれぞれ1回以上行います。	学校園では各学年それぞれが栽培活動に取り組んだ。畑では、特別支援学級を中心に年間通じて栽培、収穫活動を行った。	100
		自然	さつまいもの栽培、収穫、料理等、自治会と協力した活動を年2回以上行います。	寺村自治会、JA、幼稚園と協力してのさつまいもの栽培、収穫活動を行った。料理については中止となった。	100
		自然	小田川に親しむ活動を年6回以上行います。	○2年生の地域の方を招いてのかじか採り(幼稚園と合同) ○5・6年生の水生生物調査、水辺の野鳥観察 ○ふるさとクラブ活動の小田川の水質調査等	90
		暮らし	紙ゴミと可燃ゴミの分別を徹底して、校内から出るゴミの排出量を削減します。	紙ゴミと可燃ゴミの分別は教職員、児童ともに徹底して行った。年度末は、文書処理や片付け等で排出量が増えたが、目標数値は達成できた。	80
		暮らし	印刷ミス用紙の裏側を利用して、メモ用紙を20冊以上手作りするとともに、週案等校内文書の印刷に活用します。	校内文書等については両面刷りを推奨、職員会の資料はデータで配布したため用紙類の使用削減ができた。裏紙の使用、印刷ミス用紙を利用した伝言メモの作成を行った。しかし、感染警戒レベルが下がりに行事等が再開され配布文書が増えたため昨年度と比べると使用量は増えた。	60

36	小田小学校	環境教育	ホームページや学校便りに、学期に1回以上、環境に関する実践やエコに関する記事を掲載します。	児童の自然体験活動やSDGs、環境に関する学習をホームページに掲載したり、学校便りでお知らせしたりした。	100
37	内子中学校	自然	年1回PTAと協力して敷地内の草刈りを実施する。	8月と3月にPTAと協力をして敷地内の草刈りを実施した。	100
		自然	年に1回3年生全員が廃油石けんづくりを体験する。(新型コロナウイルス感染症拡大防止のための影響がなければ実施)	2学期に総合的な学習の時間で実施した。	100
		暮らし	牛乳パックを回収し、年間50ロール以上のトイレトーパーへのリサイクルの促進を目指す。(感染症の影響がなければ実施)	新型コロナウイルス感染防止のため、牛乳パックを回収することが出来なかった。	-
		暮らし	生徒会活動の一環として、最低月1回以上アルミ缶とペットボトルキャップを回収する。	毎月実施している。	100
		環境教育	環境子ども会議への参加者を、1年生全員とする。(新型コロナウイルス感染症拡大防止のための影響がなければ実施)	環境子ども会議に1年生全員が参加した。	100
		環境教育	ホームページを通じて、年に3回学校の環境に関する取組を紹介する。	ホームページを通じて環境に関する取組を紹介した。	100
38	大瀬中学校	自然	校内の落ち葉収集や除草活動を継続的に行う。	生徒や職員で協力して落ち葉収集や除草活動を行った。また、保護者やコミスクにも協力していただき、除草活動を行った。	100
		暮らし	各月の電気、水道、ガス、紙、冬の灯油の使用量を職員に回覧することによって、使用量を減らそうという意欲を高める。	エコを意識して裏紙の再利用を行った。灯油の使用量については口頭で伝え、エアコンとの併用をしたり、午後の暖かいときにはエアコンのみの使用にしたりして、省エネに心がけるように啓発をした。	90
		環境教育	生徒会保健委員会の活動を中心に、毎週木曜日に資源ゴミの回収に努めるとともに、生徒集会で取り組み等を発表し、環境に配慮した生活を意識づける。	毎週目標日の可燃ゴミ回収や週1回の朝のボランティアを継続して行った。さらに秋の落ち葉の多い時期にはボランティアの数を増やしたり、自主的に掃除をしたりと意欲的に清掃活動に取り組んだ。	80
39	五十崎中学校	自然	1か月に2リットルのペットボトル(5本)のえひめAI-1を散布する。	生徒会を中心に、毎日散布を行った。	100
		自然	卒業証書はすべて地域内で生産された和紙を使用する。	地域の和紙を活用した卒業証書を使用した。	100
		自然	美術科で使用する風景画用の和紙を引き続き地域内で生産されたものを使用する。	実施できなかった。	0
		暮らし	新型コロナウイルス感染症の危険が無くなったときから、牛乳パックを毎日回収し、リサイクルをする。	感染対策をとりながら、実施することができた。	100
		環境教育	環境福読本を利用した授業を(1回以上)各学年で行う。	各学年で(1年総合・2年家庭科・3年理科)授業を行った。	100
		環境教育	アルミ缶回収を生徒会中心に計画していく。	コミスクと連携して計画し、実施することができた。	50

40	小田中学校	自然	えひめAI-1を週1回トイレと洗面所に使用し、学校便り等を通じて、学期に1回保護者に利用促進を呼びかけます。	えひめAI-1を利用し、環境衛生面で効果を得ることができた。しかし、保護者等への利用促進の呼びかけはできなかった。	50
		自然	1年生による農業体験学習や総合的な学習の時間を利用した林業体験を実施します。	ピーマンの収穫や出荷作業、木の伐採作業等の農林業体験学習を実施した。	100
		自然	全校生徒でふるさと学習の時間を活用したシイタケの栽培から収穫、調理に関する学習を年間5回以上実施します。	ふるさと学習の時間にしいたけの栽培や調理などの学習を年間5回以上行った。	100
		暮らし	生徒会環境委員会を中心に、地域住民・事業所に対して働きかけ、年間500kg以上のアルミ缶の回収を目指します。	回収強調週間を設けるなどして、全校生徒及び教職員で努力した。地域の方も協力をしてくださった。年間回収量504kgで、目標を達成した。	100
		暮らし	牛乳パックを回収し、年間50ロール以上のトイレトーパー等へのリサイクルの促進を目指します。	回収率100%を達成した。	100
		環境教育	生徒会環境委員会による取組発表会を年間1回以上実施します。	環境委員会の発表を実施できた。	100
		環境教育	生徒会本部投げかけによる地域でのボランティア清掃を年間10回以上実施します。	今年度の実施は8回だった。しかし、毎回、ほとんどの生徒が参加することができた。	80
		環境教育	環境子ども会議に1年生全員が参加し、町内の活動について学習するとともに、保護者の参加を呼びかけます。	会議に参加し、環境問題に関する理解を深めることができた。また、その様子は学校ホームページで紹介することができた。	80
41	内子学校 給食センター	自然	給食で使用する町内産食材の割合（重量ベース）を60パーセント以上とする。	野菜については町内産を優先しているが、まとまった量の確保が難しいこともあり、重量ベースで41.2%（県内産では62.8%）となり、目標達成できなかった。なお、米と卵は100%町内産であった。	70
		暮らし	廃食用油すべてをBDFとして活用する。	廃食用油すべてをBDFとして活用した。	100
		環境教育	毎日の献立に関する食情報・思いを給食時放送文として各学校に送付する。	毎日の献立に関する食情報・思いを給食時放送文として各学校に送付することができた。	100
42	小田学校 給食センター	自然	給食の食材における町内産野菜の使用率65%以上を目指す。	地元産野菜の使用を目指し、「からり」や「せせらぎ」からの購入により、使用率が前年度より8%増え、64%となった。	98
		暮らし	廃食用油すべてを再利用する。	廃食用油は、NPO法人「環境NPOサン・ラブ」で全て引き取ってもらいBDFの原料として再活用してもらった。	100
		環境教育	環境に関する教育を、施設において年3回以上開催する。	環境に関する会合を年3回行った。	100
43	図書情報館	自然	館内に飾る花は、町内の自然の花を使用する。	四季折々の植物を利用者から提供していただき地域の自然の花を飾ようにした。	100
		自然	西側花壇では、季節の草花を植栽し心安らぐ景観づくりに努める。	図書情報館の西側にはコキアを植えて夏から秋にかけて心の安らぐ景観づくりに努めることができた。	100

43	図書情報館	暮らし	雑誌のリユース率を80%とする。	雑誌649冊のうち649冊が持ち帰られ、リユース率は100%だった。期間を1か月間に延長行なったためリユース率は目標を超えることができた。	100
		暮らし	ペットボトルのキャップ収集に協力する。	館内に収集箱を設置し、多くの利用者に協力してもらった。	100
		暮らし	牛乳パックを収集し、再利用に努める。	今年度は学校給食の牛乳パックを収集し講演会の装飾用の作品にリユースし、その後町内の施設に展示してもらうことになった。	100
		環境教育	エコロジーに関する資料を収集し、年1回は広報等で知らせる。	今年度は広報で9回周知し12冊蔵書することができた。	100
		環境教育	学校等でのブックトークを通して年4回以上、子どもたちへの環境教育資料をアピールする。	・ブックトークの中で、環境教育資料を12回紹介した。 ・8月の企画展で環境に関する展示を実施した。 ・年間6回エコおはなし会を実施した。	100
44	内子自治センター	自然	愛護班による活動の中で、自然に関することを学ぶ活動を複数の班で実践する。	芋掘り体験や果物狩りなど、自然に関わる活動を複数の単位愛護班において実施できた。	100
		暮らし	夏場の室温を下げるため、緑のカーテンを事務室の窓全面(6.8㎡)に設置する。	NPO法人環境NPOサン・ラブからいただいた苗15株ほどを使い、事務室のL字形の窓に沿ってゴーヤやゆがのおの苗を植え、夏場から秋頃にかけて窓一面覆うほどに成長した。	100
		暮らし	NPO法人環境NPOサン・ラブと協力して、地域住民にゴーヤの苗およそ50株を配布し普及させる。	内子自治センター入口において苗を配布し、正確な数は把握していないものの、いただいた苗50以上の数を周辺住民や定期利用団体の利用者に配布した。	100
		環境教育	自治会連絡会や高齢者大学の講座などにおいて、環境教育に関わる学習会を年2回以上実施する。	8月に内子地区高齢者大学において環境政策室職員に、内子町内のゴミ問題や環境問題に関する講演をしていただいた。また、2月には内子自治センター地域づくり講演会においてNPO法人あわ・みらい創生社の井原まゆみさんをお招きし、講演の中でオープンガーデンや『花と人』をテーマとした町づくり活動など、環境に関する様々な取り組みについてお話いただいた。	100
45	内子東自治センター	自然	東自治センターの主催事業において、環境保全に関する体験活動を年1回以上実施する。	内子自治センターと合同の「内子ふれあい夏季キャンプ(8/3～8/4)」で環境保全学習を実施した。	100
		暮らし	緑のカーテンの苗を配布し、コンテストに自治センター管内から1件以上の応募を呼び掛ける。	応募を呼び掛けたが、実際の応募者はいなかった。	50
		環境教育	環境に関する記事を自治センターだよりに年1回以上掲載する。	5月の「高齢者教室」で身近な環境問題について、8月の「夏季キャンプ」で海辺の生物観察した記事をセンターだよりに掲載した。	100
		環境教育	環境問題に関する情報を館内で回覧し、情報共有をはかる。	6月1日付の「ウクライナ戦争に見る深刻な環境破壊」について記事の回覧をした。	100

46	大瀬 自治センター	自然	大瀬農業祭柿まつり」の成功に向けて、大瀬特産の柿などの特産品を町内外に広くPRする。特に町外のPRは2回以上実施する。また、地元で採れた果樹や農産物を中心とした軽トラ市を10台以上で実施する。	事業中止	-
		暮らし	施設利用者に対して使い捨て容器の使用の自粛を啓発し、自粛率80%以上を目指す。	飲食実績なし	-
		環境教育	エコセミナー活動の内容をより精査し充実させ、年10回以上実施する。活動を実施することにより、大瀬の子ども達の環境に対する意識を高め、郷土愛を育てる。	実施回数6回 感染拡大防止により中止事業5事業	60
47	五十崎 自治センター	自然	元気わくわく川まつりや、環境学習会を開催し、自然に多く触れる機会を作り生き物の生態系や環境のことを勉強していく。	河川状況により元気わくわく川まつりは実施できなかったが、自治センター事業として水生生物観察会と野鳥観察会は行うことができ、地域の自然環境について学ぶ事はできた。	60
		暮らし	肥料場で肥料を作り、自治センター周辺の植栽等に活用する。	花いっぱい活動のための肥料提供を行った。	100
		暮らし	廃棄段ボールを再利用し有効活用する。	センター事業の小道具などを段ボールを使って作成し、環境に配慮するとともに、経費削減に努めた。	100
		環境教育	センターだよりにて環境に関する記事を掲載していく。	水生生物観察会、野鳥観察会の実施記事を掲載	100
48	小田 自治センター	自然	スバル敷地内の落ち葉を堆肥化もしくは土に返し、堆肥については希望者に全て無料配布する。	落ち葉をたい肥にし、希望者に無料配布した。	100
		自然	城の台公園で草刈りした刈草について、希望者に無料配布する。	城の台公園で草刈りした刈草について、希望者に無料配布した。また選定した樹木の枝を動物園のエサ用に譲渡した。	100
		暮らし	図書貸し出しに伴う、本館・分館間での図書移動の際に使用する梱包材・緩衝剤は、図書購入時に同梱されている物を必ず再利用する。	図書貸し出しに伴う、本館・分館間での図書移動の際に使用する梱包材・緩衝剤は、図書購入時に同梱されている物を再利用した。	100
		暮らし	住民の生活の中で生かしていただけるような環境関係の図書を年間10冊以上購入する。	環境関係の図書を年間10冊以上購入した。	100
		環境教育	自治センターだよりにて環境に関する記事を年2回以上掲載する。	自治センターだよりにて環境に関する記事を年2回以上掲載した。	100
49	社会福祉 協議会	自然	毎月の民生委員会配布資料等について、可能な範囲で針無しホッチキスを積極的に使用し、ホッチキスの針やクリップの消費量を減らす。	民生委員へ毎月配布している書類について、枚数が多い物は針有ホッチキスやクリップを使用した。8割以上は針無しホッチキスを使用し、ホッチキスやクリップの消費量を減らすことができた。	80
		暮らし	外出支援(ミニデイ)サービス利用者に毎月配布する案内文書にて、マイボトル持参と買い物時用のエコバック持参をお願いする。	毎月の案内文書にてマイボトル持参やエコバックの利用推進について周知することができた。現場スタッフに確認したところ、毎月8割の利用者が持参されていた。	80

49	社会福祉協議会	暮らし	介護用品(おむつ)配布時に処分する段ボールについて、地元のNPO団体や児童館に再利用していただき、古紙搬出量を減らす。	NPO団体や児童館の方以外にも、社協職員、役場、民生委員、シルバー人材センター、住民の方からお声があり、活用いただいた。去年よりも大幅に、古紙搬出量を減らすことができた。	90
		環境教育	年1回以上、サロンや協議体でゴミの分別や食品ロス等について話し合う場を作るなど、積極的に学習する機会に繋げる。	年2回ほど、協議体で地域の方(自治会長、民生委員等)にゴミの分別で困っている事やゴミ屋敷の自宅がないかなど話を投げかけ、困っている事や困った方がいたらこちらから具体的な対応等の情報提供ができることを伝えた。また、NPO団体(環境NPOサン・ラブ)の廃油石鹼の受け入れ先が年々少なくなってきたため、福祉施設などに受け入れてもらえないかこちらから相談支援を行った。話し合う場を作る機会はあったが、学習する機会は作れなかった。	70
50	みどり苑	自然	施設所有の畑を利用し、入所者・利用者・ボランティアが年間を通じて栽培した季節の野菜(玉ねぎ、ジャガイモ、スイカ、さつまいも等)を収穫し、施設用の食材として利用する。	入所者・利用者とともに栽培したゴーヤ、さつまいも、また、施設内の竹林で収穫したタケノコを施設の食材として利用した。	80
		暮らし	施設から排出される食用廃油の100%再利用化(石鹼・車用燃料)を図る。	NPO法人環境NPOサン・ラブに、施設から排出される食用廃油のすべて回収してもらい、再利用化を図った。	100
		環境教育	施設発行のみどり苑だより(年4回発行予定)や家族会(年1回開催)を利用し、入所者・利用者・各家庭に対して、年2回以上みどり苑の環境への取り組みを周知する。	施設発行の「みどり苑だより」へグリーンカーテンの取り組みを掲載した。	80
51	神南荘	自然	厨房から出る廃食用油を地元NPO法人に回収していただき、全てBDF燃料として地域内使用にまわします。	厨房から出る廃食用油を地元NPO法人に回収していただき、BDF燃料として、地域内使用にまわした。	100
		暮らし	普通浴に古田鉱泉を利用しているが、源泉から施設までの配管や貯水タンクの維持管理を行うことで水道使用量を抑える。	普通浴に古田鉱泉を利用し、源泉から施設までの配管や貯水タンクの維持管理に努め、水道使用量を抑えることが出来た。	100
		環境教育	毎朝の朝礼で、最低1回、毎月の職員会で4回以上エコオフィスの推進を呼びかけます。	毎朝の朝礼で、最低月1回、毎月の職員会で4回以上エコオフィスの推進を呼びかけた。	100
52	内子フレッシュパークからり	自然	隣接する小田川周辺河川敷の除草。 植樹、落ち葉の回収。 落ち葉は出荷者へ提供	河川敷の除草は4月、5月、7月、8月、9月で実施。 アジサイの植樹は6月、花桃の植樹は3月に実施。 落ち葉回収は9月以降3月まで毎日。 出荷者への提供は量が集まり次第連絡。	100
		暮らし	ゴミ分別の再徹底。 マイバック持参の呼びかけ。 プラスチックスプーンの有料化により使用料削減。	毎日のごみ分別を丁寧に待つ。 マイバック持参は周知されている反面、万引きを誘因するため対策が必要。 ゴミ箱の種別の明記を再度表示確認。 木製スプーンを採用、プラスチックスプーン使用量を減らす	100

52	内子フレッシュパークからり	環境教育	小田川の生物紹介、内子周辺の動植物の紹介、内子町の食文化の紹介。 プラスチックごみ問題の記事紹介。	紹介内容の更新が必要。 内子町の食文化について売場にPOP掲示等を行えていなかった。しかしながら、内子町で栽培されている食材の紹介は行えた。 プラスチックごみ問題の更新が必要。	100
53	小田の郷せせらぎ	自然	月二回、必ずトイレ掃除の際に「えひめAI-1」を使用する。	2日に一度、掃除員が使用した。	100
		暮らし	年間を通してお客様と生産者に対しエコバッグを持参していただくよう呼びかけを行い、レジ袋の削減に務める。また職員はマイバッグを持参する。	年間を通して、お客様と生産者に対し呼びかけを行った。レジ袋をバイオマス25に全て変更した。なお、職員は必ずマイバッグを持参することができた。	100
		環境教育	業者に対し、搬入時の資材を全て回収して頂くよう呼びかけを行う。また可能な資材は、苗物を入れる箱として再利用する。	搬入資材は業者に回収してもらい、また段ボール資材は苗物をいれる箱として利用した。	100
合 計	自然	80			90.7
	暮らし	89			91.5
	環境教育	79			90.1
	計	248			90.8

3.内子町環境マネジメントシステム“うちエコ”取り組み状況

(1) “うちエコ”とは

内子町は、「第2次内子町環境基本計画」や「内子町地球温暖化対策実行計画事務・事業編（第5次内子町エコオフィスプラン）」に沿って、各種の環境施策を展開しています。そしてこれらの計画を着実に実行していくため、内子町環境マネジメントシステム“うちエコ”により取り組みの進行管理を行っています。

“うちエコ”は、環境自治体会議が自治体向けに開発した環境マネジメントシステム「※1 環境自治体スタンダード LAS-E（ラス・イー：Local Authority's Standard in Environment）」を土台とし、さらに内子町に適した内容となるよう独自に構築したものです。「住民参加の環境づくり」の理念の下、町民との協働による「エコロジータウン内子」の実現を目指します。

“うちエコ”の運用を通して「PLAN（計画・目標）」－「DO（実行）」－「CHECK（点検・評価）」－「ACTION（見直し）」のサイクルを明確にし、これを繰り返すことで、取り組みの継続的な改善を図ります

〔参考〕内子町における環境マネジメントシステム導入の経緯

1992 年（平成 4 年）	環境自治体会議加入
2001 年（平成13 年）	内子町エコオフィスプラン策定（内部監査の実施）
2006 年（平成18 年）	内子町環境基本計画策定 環境自治体スタンダードLAS-E 導入 第1 ステージ合格（12 月20 日）
2007 年（平成19 年）	第15回 環境自治体会議 うちこ会議開催
2009 年（平成21 年）	第2 ステージ合格（12 月28 日）
2012 年（平成24 年）	第3 ステージ合格（12 月27 日）
2017 年（平成 29 年）	内子町環境マネジメントシステム“うちエコ” 導入

※ 1 「環境自治体スタンダード LAS-E」は、自治体の環境に関する取り組みが環境自治体としてふさわしいかどうかをチェックするために、環境自治体会議が開発した基準で、自治体固有の特性にあわせてつくられた仕組みともいえます。その特徴として、住民参加のもとで町における環境施策の目標設定や監査を行うことを定め、住民参加の視点を重要視している点が挙げられます。

※ 2 部署によっては、手引き書に掲げる取り組みの内容が業務の実態と合わない場合もあるかと思いますが、その場合は適宜、実情にあわせた取り組みを行ってください。

(2) 令和4年度うちエコ監査

昨年度に引き続きコロナ禍ではありましたが、やはり現場で直接声を聴く方が監査を正確に行いやすいとの意見を多数いただきましたので、昨年同様感染対策をしたうえで実施しました。各職員への聞き取りを事前におこなってもらい、その他部署内の取り組みを写真で準備してもらうなど各部署には協力をいただきました。結果として、コロナ前ほどとはいきませんが、比較的近い形で実施することが出来ました。

なお例年と同様に、町の環境政策にかかる研修の一環として今年度新規採用職員も監査に参加しました。

① 監査の日程・方法

監査日程：推進本部 令和5年1月18日（水）

実行部門等 令和5年1月23日（月）・25日（水）

全体協議 令和5年1月27日（金）

監査方法：監査員による聞き取りを含めた実地調査

② 対象部署

NO.	区 分	部 署 名 等
1	推進本部	町長
		副町長
		教育長
2	実行部門	税務課
3		子ども支援課
4		内子総合窓口センター
5		農林振興課
6		学校教育課
7		小田支所
8		内子児童館
9		大瀬小学校
10		石畳小学校
11		五十崎小学校
12		小田小学校
13		内子中学校

14		大瀬中学校
15		五十崎中学校
16		小田中学校
17		内子学校給食センター
18		小田学校給食センター
19		八日市・護国町並保存センター
20		図書情報館
21		内子自治センター
22		大瀬自治センター
23		小田自治センター
24		参川福祉館
25	事務局	環境政策室

③ 監査結果

1) 総合所見

令和4年度のうちエコ監査は、推進本部・実行部門 23 部署・事務局、計 25 の部署等を対象に実施しました。

本年度の監査は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策として、時間を 30 分に限定し、かつ聞き取りを各部署等の長及びエコアップ推進員のみにとするとともに、部署内の見回りの代わりに取り組み状況が分かる写真を準備するなどのご協力をいただいたうえで行いました。対象部署等の皆さまのご協力に深く感謝申し上げます。

評価の方法は、取り組みの内容や目標の達成状況について、☆（特に優れた取り組み）◎（良好な取り組み）○（取り組んでいる）△（改善要望事項）×（勧告事項）の 5 段階で判断しました。その結果、☆1 個、◎32 個、△3 個、×2 個となりました。

全体を通して、従来から取り組んできている基本的な環境対策がおおむね定着し、着実に実践されている様子がうかがえました。

その中で「☆」となった部署については、エコを進めることで予算の削減にも成功しており、エコロジーとエコノミーが両立している点を高く評価しました。

また、未だに続くコロナとの共存も昨年度以上にうまく進んでおり、WEB 会議の定着や様々なイベントの復活など、今後エコ活動を進めていく上で希望が見えた監査となりました。

一方で、マンネリ化のためか一部厳しい評価がなされた部署もあります。その多くは職員一人一人の意識の低下から来るもので、この点について来年度以降、研修に積極的に参加していただくなど、今一度「エコロジータウン内子」の理念に立ち返り、より一層の定着・発展を望みます。

さらに、2050 年の脱炭素社会実現を目指すという国の方針により、自治体や家庭に対してこれまで以上にハードルの高い温室効果ガス排出量の削減目標が示されています。今後は自治体だけではなく事業者や家庭を巻き込んで活動を進めていくことがより重要になってくると考えます。

今後うちエコを進めていくなかで、事務局にはより一層の情報発信に努めていただきたいと思います。

うちエコを通して、内子町の取り組みが町民により広く深く浸透し、家庭や職場などでも生かされて、町全体でエコロジータウン内子の実現につながっていくことを期待します。

④ 評価結果

1) 推進本部

NO	設問内容	評価						
		☆	◎	○	△	×	/	—
1	町長／方針の設定・周知		1					
2	町長／環境基本計画の推進（協議・指示）			1				
3	町長／EMS の運用・改善			1				
4	副町長／エコオフィスの推進			1				
5	副町長／エコオフィスの推進		1					
6	教育長／環境教育の推進（環境学習）			1				
7	教育長／環境教育の推進（地域の環境活動）			1				
合 計		0	2	5	0	0	0	0
達 成 率（○以上の項目／全 6 問）		100%						

2) 実行部門

NO	設問内容	評価						
		☆	◎	○	△	×	/	—
1	環境基本計画の内容と実施状況			8			15	
2	独自目標の内容と達成見込		2	21				
3	独自目標の改善		4	19				
4	エコオフィスの推進（節電）		2	19		2		
5	エコオフィスの推進（その他燃料の節減）		2	20			1	
6	エコオフィスの推進（紙の使用量削減と分別）		5	18				
7	エコオフィスの推進（グリーン購入）		1	21	1			
8	町民や事業者等との連携		6	17				
9	公共事業における環境配慮		1	17			5	
10	職場での情報共有			21	2			
11	ゴミの削減について		1	22				
12	全般（その他取り組みの工夫）	1	5	17				
13	地域環境への関心			23				
14	全般（各人の環境配慮の取り組み）		2	21				
15	全般（うちエコに関する意見・要望）	（評価対象外）						
合 計		1	31	264	3	2	21	
達 成 率（○以上の項目／全 15 問×23 部署） ※該当なし項目（—）を除く		98%						

3) 事務局

NO	設問内容	評価						
		☆	◎	○	△	×	/	—
1	基本方針の周知・理解			1				
2	環境に関する定期的研修			1				
3	首長との協議			1				
4	目標達成状況の公開			1				
5	指摘事項の改善			1				
6	全般（取り組みの工夫・改善）		1					
7	システム全般（うちエコの運用）		1					
8	システム全般（監査の工夫・改善）		1					
9	システム全般（監査の評価）			1				
10	システム全般（監査の報告）			1				
合 計		0	3	7				
達 成 率（○以上の項目／全 10 問） ※該当なし項目（—）を除く		100%						

—監査の様子—



推進本部監査



全体会

(3) エコ見回り

今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、多くが中止になってしまいました。しかしその様な状況下においても規模の縮小や感染対策を徹底することにより、内子小学校と天神小学校にて実施されました。実施方法を工夫することでエコ活動を継続されており、取り組みが浸透していることがうかがえます。

① 内子小学校2年生のエコ見回り

実施日：令和4年12月13日（火）

訪問先：内子総合窓口センター

内子町商工会

環境 NPO サン・ラブ

内子町ビジターセンター

内子自治センター

内子町図書情報館

内子東自治センター

内 容： 職場インタビューと電気・水
紙ゴミ分別の見回り



内子町図書情報館で話を聞く様子

② 五十崎こども園のエコ見回り

実施日：令和5年2月27日（月）

訪問先：役場本庁

五十崎自治センター

内 容：職場インタビューと電気・水
紙ゴミの見回り



トイレの電気や水道もチェックします



水の無駄遣いをしないよう啓発シールを貼っています



説明も真剣に聞いています

(4) 数値目標評価結果

うちエコの視点・エコアクション (A: 環境活動) ①ホップ④ステップ⑦ジャンプ
 ・エコマネジメント (M: 環境経営) ②ホップ⑤ステップ⑧ジャンプ
 ・エコガバナンス (G: 環境自治) ③ホップ⑥ステップ⑨ジャンプ

ステージ		目標	達成状況	評価
ホップ	A103	電気使用にかかる温室効果ガス排出量を、2019 年度比で 3.2%以上削減します。	○	○
	A104	公用車等の燃料使用にかかる温室効果ガス排出量を、2022 年度までに、2019 年度比で 5.5%以上削減します。	○	
	A105	公用車の走行にかかる温室効果ガス排出量を、2022 年度までに、2019 年度比で 0.6%以上削減します。	○	
	A106	その他燃料使用にかかる温室効果ガス排出量を、2022 年度までに、2019 年度比で 5.5%以上削減します。	○	
	A107	公共事業における省エネルギーに関する環境配慮率を、90%以上にします。	○	
	A108	コピー用紙等の使用量を、2025 年度までに、2019 年度比で 2.5%以上削減します。	○	
	M107	環境や環境マネジメントシステムにかかる職員研修を年 1 回以上開催します。職員はこれに積極的に参加し、その内容を理解します。	○	○
	M112	ホップステージの取り組み項目や目標について、監査を年 1 回実施します。	○	
	G104	環境に関連する情報を、広報や HP で年 50 回以上提供します。	○	○
ステップ	A205	内子町環境基本計画にかかる事業の達成度を示す指数および数値目標の達成率を 70%とします。	○	○
	A206	内子町環境基本計画に関連した独自の数値目標を各部署で設定・実施し、その達成率を 90%とします。	○	
	M206	内子町環境マネジメント推進本部会議を年 2 回開催し、評価・見直しを行います。	○	○
	M207	ステップステージの取り組み項目や目標について、監査を年 1 回実施します。	○	
	G203	環境に関する施策・事業計画等について、町民との意見交換の場を年 20 回以上設けます。	○	○

ジャンプ	A302	うちエコに賛同し実践する事業所等を3つ以上設け、公表します。	×	△
	A305	エコロジータウン内子のまちづくりを推進するため、環境団体等が主体となって勉強会を年1回開催します。	○	
	A307	えひめ AI-1 の利用促進を図るため、環境団体が主体となり農業分野における実践活動を1つ以上行います。	○	
	A308	環境団体が主体となり、環境に関する実践活動を、他団体と連携して15回以上開催します。	○	
	M304	ジャンプステージの取り組み項目や目標について、監査を年1回実施します。	○	○
	G302	町民や事業者、団体、自治会等の環境への取り組みについて、年1回は広報で紹介するとともに、年次報告書に掲載し公表します。	○	○
	G303	住民、団体等による主体的な活動を5種類以上サポートします。	○	

達成状況：○＝達成、×＝未達成

評価：○＝良好、△＝改善要望、×＝勧告

[所見]

9つの評価項目について「○」（良好）＝8つ、「△」（改善要望）＝1つ、「×」（勧告）＝0となり、令和3年度と比べて「○」が2つ増え、「△」が2つ減りました。

令和4年度は、エネルギー使用にかかる温室効果ガスの排出量削減を目指す項目をはじめ、ほとんどの項目で目標を達成することができました。

唯一の「△」評価は、ジャンプステージのエコアクションにかかる目標です。4つの項目のうち、A302「うちエコに賛同し実践する事業所等を3つ以上設け、公表します。」の達成状況が「×」となりました。コロナ禍以降、企業に対して新たな呼びかけが行えておらず、また企業内においても換気や消毒の徹底など、エコの実践が難しい状況にあることは理解しています。社会状況の変化を踏まえ、うちエコの取り組みなどについて町から積極的に情報発信を行い、企業内での理解促進や実践につなげるなど、数値目標の見直しも含めて改善を要望します。

また、環境基本計画の独自目標が昨年と全く同じで、同じことをして目標を達成できたと自己評価していた部署が多く、取り組みがマンネリ化している傾向もうかがえます。各目標を見直し、ステップアップしてほしいと思います。

全体的に言えることですが、目標の基準年度がコロナ禍前の 2019 年度であり、コロナ禍でイベント自粛、オンライン会議の定着等で、各エネルギー使用量が減少してきましたが、影響を受けなくなる今年度以降は、再び増加して、目標達成が困難になることも予測されます。

長年にわたり取り組みを続けてきており、これ以上のステップアップが難しい部分もあるかと思いますが、温室効果ガスの排出量削減にかかる国の目標値がより厳しく見直されたことで、今後は町の目標値も見直しが求められています。

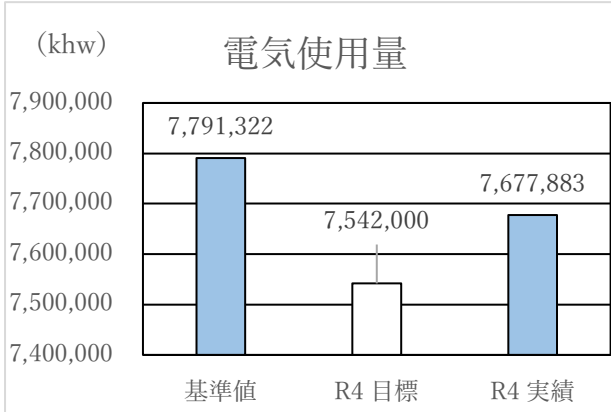
コロナ禍を経て、社会環境が変わったとことで、新しい対策を打つことができる面もあるかと思います。いま一度、町民に働きかけ、町民を巻き込んだ全国的に注目される環境の取り組みを進めてほしいと思います。

4. 内子町エコオフィスプラン

(1) 令和4年度の取り組み状況

内子町エコオフィスプランは、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく地球温暖化対策実行計画（事務事業編）として策定しており、令和4年度は第5次計画期間（令和3年度～令和7年度）の2年度目となります。

令和4年度の取り組み状況は、次のとおりです。



項目：電気使用量

目標→R1 年度実績比 3.2%減

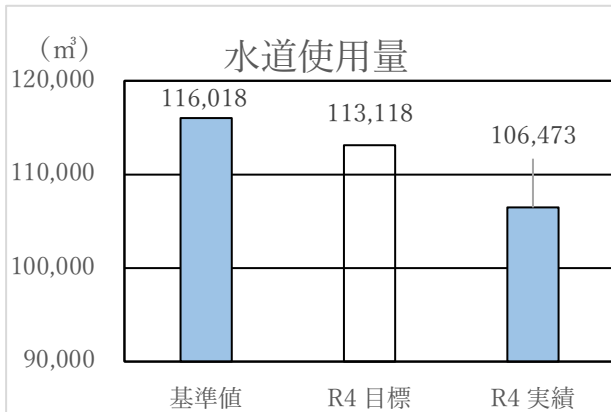
結果→1.5%減(×)

考察：

電気使用量は 7,677,883kwh で基準年度比 1.5%減と 3.2%減の目標達成にはいたりませんでした。

長引くコロナ禍において教育施設等において削減が思うように進まない結果となりました。しかし、昨年度（基準年度比 3.8%増）と比較すると全体としても大幅な削減に成功しており、必要な部分は使うが無駄な使用は控える、工夫をすることで削減を実現した結果ともいえます。

来年度以降、どのように情勢が変化するかは予測は難しいと思いますが、引き続きメリハリのある使用を心掛けていただき、より一層の削減をお願いします。



項目：水道使用量

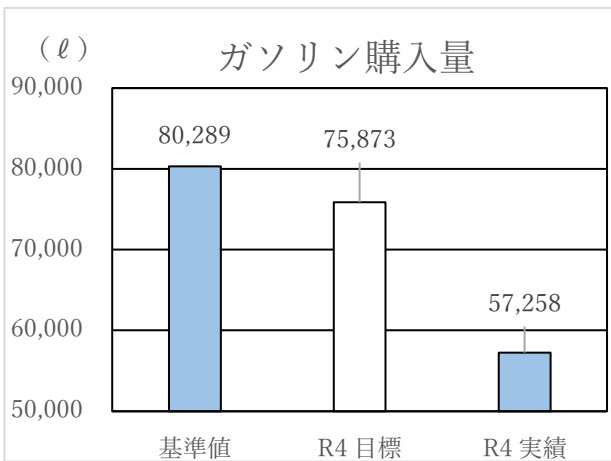
目標→R1 年度実績比 2.5%減

結果→8.2%減(○)

考察：

水道使用量は 106,473 m³ で基準年度比 8.2%減と 2.5%減の目標を大幅に上回る結果となりました。

引き続き限りある水資源の有効活用をお願いします。



項目：ガソリン購入量

目標→R1 年度実績比 5.5%減

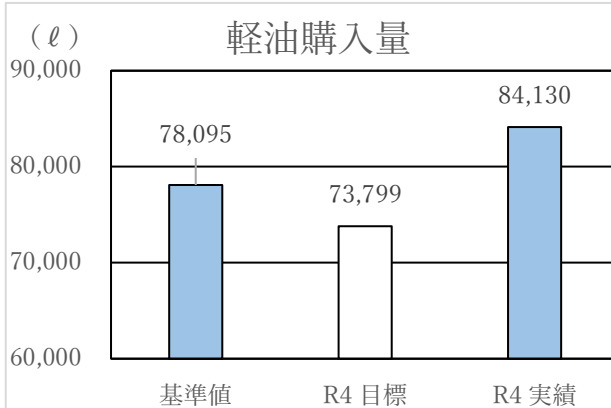
結果→28.7%減(○)

考察：

ガソリン購入量は 57,258 リットルで基準年度比 28.7%減と 5.5%減の目標を大幅に上回る結果となりました。

Web 会議の定着、近距離での徒歩、自転車利用などが減少の理由と考えられます。

今後も可能な限り車の利用を控えていただき、公用車購入の際にはEVなどの高燃費車の導入を検討するなど更なる削減へ協力をお願いします。



項目：軽油購入量

目標→R1 年度実績比 5.5%減

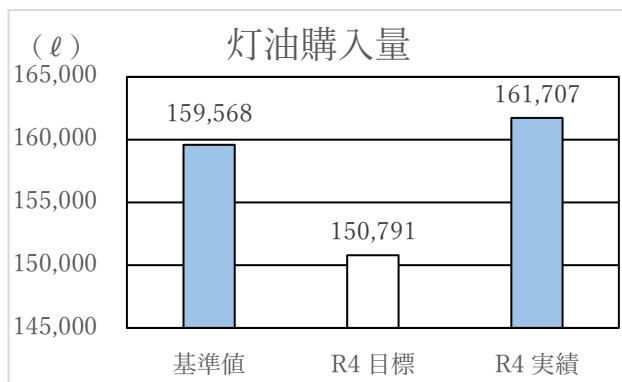
結果→7.7%増(×)

考察：

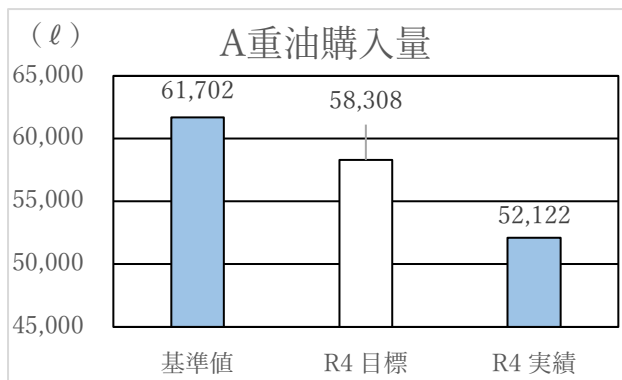
軽油購入量は 84,130 リットルで基準年度比 7.7%増と 5.5%減の目標達成にはいたりませんでした。

軽油は約半分をソルファ小田の降雪機で使用しており、また基準年度の営業日数が短かったことから目標達成が難しい状況が続いています。

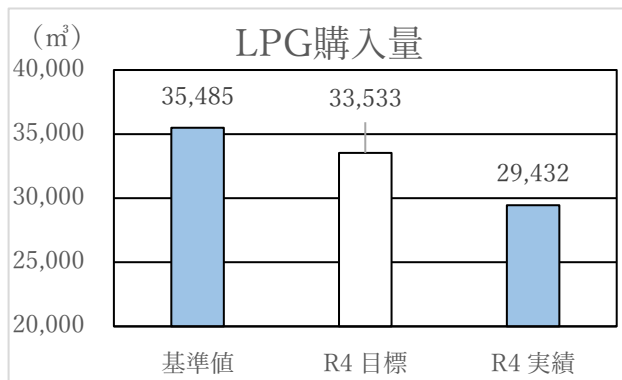
その他公用車等での使用分も含まれますので、削減可能な部分での取り組みをお願いします。



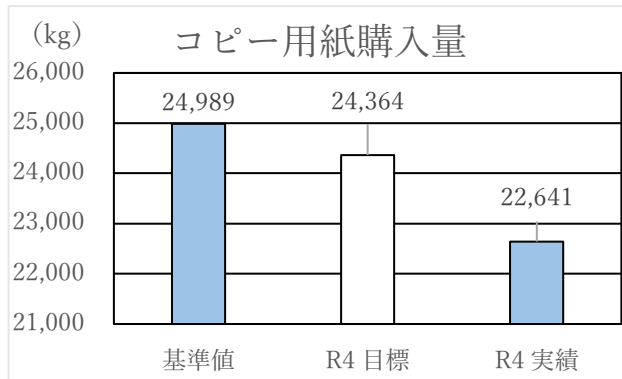
項目: 灯油購入量
 目標→R1 年度実績比 5.5%減
 結果→1.3%増(×)
 考察:
 灯油購入量は 161,707 リットルで基準年度比 1.3%増と 5.5%減の目標達成には
 いたりませんでした。
 電気使用量と同じくコロナ禍という状況が削減の進まない一因となっています。
 その他クリーンセンターでの助燃材としても利用していますが、町全体でのごみ削
 減がうまく進んでいないことで横ばい傾向が続いています。
 設備更新などのタイミングに合わせバイオマス利用機器の導入検討をしていただ
 くなどのご協力をお願いします。



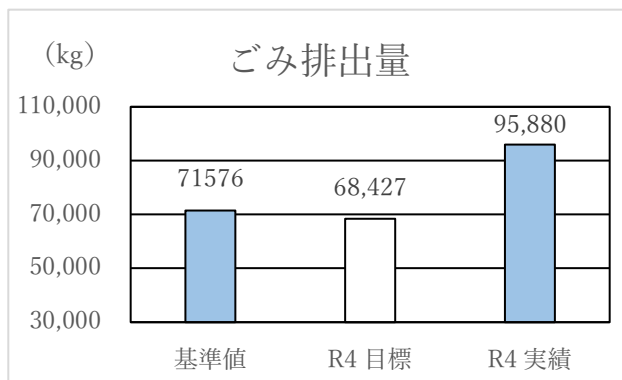
項目: A 重油購入量
 目標→R1 年度実績比 5.5%減
 結果→15.5%減(○)
 考察:
 A 重油購入量は 52,122 リットルで基準年度比 15.5%減と 5.5%減の目標を大幅
 に上回る結果となりました。
 現在では購入量の 9 割以上を給食センターで利用しています。
 減少の理由としては購入のタイミングが少なかったこと、業務の効率化などが考
 えられます。
 削減へ向けた努力が難しい部分ではありますが、引き続きご協力をお願いします。



項目: LPG 購入量
 目標→R1 年度実績比 5.5%減
 結果→17.1%減(○)
 考察:
 LPG 購入量は 29,432 m³で基準年度比 17.1%減と 5.5%減の目標を大幅に上回
 る結果となりました。
 主に給湯、調理で使いますが、コロナ禍での調理機会の減少が大きな要因と思
 われます。
 電気使用量と同じく情勢に左右される部分が大きくなりますが、適正な利用や IH
 の検討など引き続き削減へ向けた取り組みをお願いします。

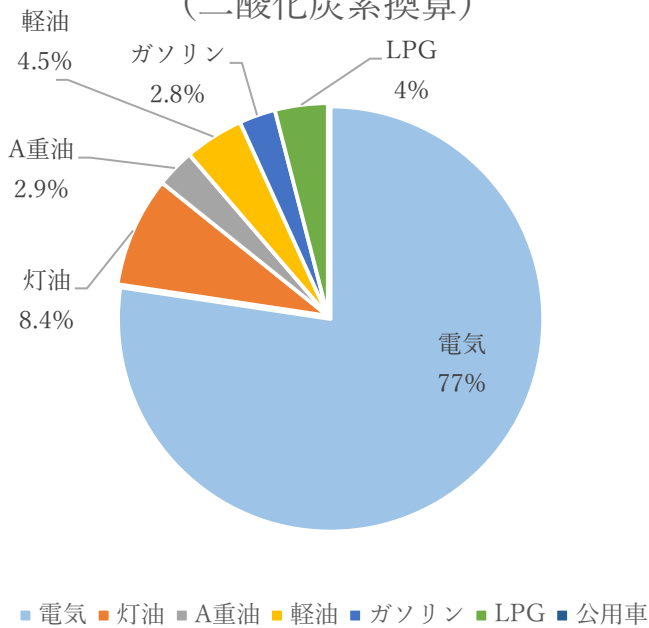


項目: コピー用紙購入量
 目標→R1 年度実績比 2.5%減
 結果→9.4%減(○)
 考察:
 コピー用紙購入量は 22,641kg で基準年度比 9.4%減と 2.5%減の目標を大きく上
 回る結果となりました。
 これまで数年かけて、タブレットの導入や文書管理システムを導入してきた結果、
 順調に削減が進んでいます。
 また教育現場でも紙での周知以外に独自システムを使うなど様々な取り組みがな
 されています。
 今後も裏面利用や、紙での周知が適当かなど検討していただき、より一層の削減
 をお願いします。



項目: ごみ排出量
 目標→R1 年度実績比 4.4%減
 結果→34%増(×)
 考察:
 ごみ排出量は 95,880kg で基準年度比 34%増と 4.4%減の目標達成にはいたりま
 せませんでした。
 コロナ禍の影響でイベント等が中止になり空いた時間で片付けを行った部署や、
 マスクなど衛生上持ち帰りが望ましくないものの処理が増加した結果排出量の大幅
 増加につながりました。
 次年度以降片付けごみは落ち着くかと推測されますが、今一度無駄なごみが発
 生していないかの確認、削減の実行をお願いします。

令和4年度 温室効果ガス排出量 (二酸化炭素換算)



項目：温室効果ガス排出量

目標→R1 年度実績比 3.2%減

結果→5.48%減(○)

考察：

温室効果ガス排出量は 4,810,553kg-CO₂ で 3.2%の削減目標に対し 5.48%減と目標を達成することができました。

電気使用量は基準年と比較しても大きく減少したとは言えない状況ですが、排出係数の変更があったことで実質削減となりました。反対に増えた項目としては換気と併用して運用した灯油、ソルファ小田の運営上必要な降雪機につかう軽油などで増加が見られました。

なお今年同様にコロナ禍であった昨年と比較しても削減に成功しており、皆様の様々な対応のおかげかと考えています。

今後コロナ終息後の経済活動等再開に向けて、引き続き温室効果ガス排出量削減へのご協力をお願いします。

※令和4年度 温室効果ガス排出量算定

項目	温室効果ガス	使用量等	排出係数	地球温暖化係数	二酸化炭素換算排出量
電気使用量	二酸化炭素	7,677,883 kwh	0.484	1	3,716,095 kg-CO ₂
灯油購入量	二酸化炭素	161,707 リットル	2.49	1	402,651 kg-CO ₂
A 重油購入量	二酸化炭素	52,122 リットル	2.71	1	141,251 kg-CO ₂
軽油購入量	二酸化炭素	84,130 リットル	2.58	1	217,056 kg-CO ₂
ガソリン購入量	二酸化炭素	57,258 リットル	2.32	1	132,839 kg-CO ₂
LPG 使用量	二酸化炭素	29,432 m ³	6.55	1	192,782 kg-CO ₂
公用車走行距離	メタン	1,078,183 km	—	21	7,879 kg-CO ₂
	一酸化二窒素		—	310	
					4,810,553 kg-CO ₂

※令和1年度 温室効果ガス排出量算定

項目	温室効果ガス	使用量等		排出係数	地球温暖化係数	二酸化炭素換算排出量
電気使用量	二酸化炭素	7,791,322	kwh	0.500	1	3,895,661 kg-CO ₂
灯油購入量	二酸化炭素	159,568	リットル	2.49	1	397,324 kg-CO ₂
A 重油購入量	二酸化炭素	61,702	リットル	2.71	1	167,212 kg-CO ₂
軽油購入量	二酸化炭素	78,095	リットル	2.58	1	201,485 kg-CO ₂
ガソリン購入量	二酸化炭素	80,289	リットル	2.32	1	186,270 kg-CO ₂
LPG 使用量	二酸化炭素	35,485	m ³	6.55	1	232,427 kg-CO ₂
公用車走行距離	メタン	1,157,818 km		—	21	8,847 kg-CO ₂
	一酸化二窒素			—	310	
						5,089,226 kg-CO ₂

- 五十崎地区

測点	水域	採水場所
4	景山川上流	養豚場排水合流地点
5	景山川下流	程内 河崎橋
6	熊ノ滝川上流	熊ノ滝集会所下
7	麓川下流1	論田バス停前
8	麓川下流2	麓川出口
9	中山川上流	立川自治会館裏
10	中山川下流	宿茂バス停前
11	清正川上流	坂井建設（株）下
12	清正川下流1	朝日橋上
13	清正川下流2	清正川出口
14	小田川中流1	知清橋上流
15	小田川中流2	知清橋下流
16	郷の谷川上流	滝の奥排水路出口
17	郷の谷川下流	保健センター横

測点	水域	採水場所
1	小田川上流	中川バス停前 祝谷川との合流地点
2	小田川上流2	六角橋横 小田子川との合流地点
3	田渡川下流	突合バス停上

測点	水域	採水場所
18	牛の谷川下流	牛の谷川橋上
19	新川上流1	新川上流①
20	新川上流2	新川上流②
21	新川下流	新川出口
22	大久保谷川上流	香林寺駐車場横
23	大久保谷川下流1	大久保谷川浄化設備 取水口
24	大久保谷川下流2	大久保谷川浄化設備 排水口
25	大久保谷川下流3	西沖集会所前
26	小田川下流	豊秋橋
27	門松川下流	門松川出口
28	女体川下流	女体川下流
29	柿原川中流	柿原川中流
30	大久喜養豚場下流	大久喜養豚場下流
31	しゅうこ谷川下流	しゅうこ谷川下流
32	山王川上流	久保興業（株）倉庫裏
33	中の谷川	小林作業所横
34	田野々川下流	黒内坊上流

公共用水域水質測定分析結果一覧表 令和4年度

地 区		小 田 地 区(3箇所)			内 子 地 区 (14箇所)													
測 点		No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13	No.14	No.15	No.16	No.17
水 域		小田川 上流1	小田川上流2	田渡川 下流	景山川 上流	景山川 下流	熊ノ滝川 上流	麓川 下流1	麓川 下流2	中山川 上流	中山川 下流	清正川 上流	清正川 下流1	清正川 下流2	小田川 中流1	小田川 中流2	郷の谷川 上流	郷の谷川 下流
採 水 場 所		中川バス停前 祝谷川との合流 地点	六角橋横 小田子川との 合流地点	突合バス停上	養豚場 排水合流 地点	程内 河崎橋	熊ノ滝 集会所下	論田バス停前	麓川出口	立川 自治会館裏	宿茂 バス停前	坂井建設(株)下	朝日橋上	清正川出口	知清橋上流 (新規)	知清橋下流	滝の奥 排水路出口	保健センター横
採 水 月 日		9月15日	9月15日	9月15日	9月15日	9月15日	9月15日	9月15日	9月15日	9月15日	9月15日	8月24日	8月24日	8月24日	8月24日	8月24日	8月24日	8月24日
採 水 時 刻		13:45	13:00	12:20	11:25	11:10	11:50	09:20	09:00	10:30	09:50	14:50	14:30	14:10	13:10	13:45	11:30	11:00
測定項目	基準値																	
天候		晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	雨	雨
気温(℃)		33.9	34.7	28.2	27.9	33.5	33.5	33.5	33.7	37.4	32.1	29.3	31.3	31.1	30.7	30.8	29.1	30.1
湿度(%)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水温(℃)		24	26	26	22	28	27	26	26	27	26	27	27	29	28	28	27	28
流量(m ³ /min)		19	40	45	0.9	1.1	0.5	13	16	36	32	0.1	0.5	0.4	0.6	260	0.8	1.4
pH	6.5～8.5	8.1	8.3	8.5	7.7	7.7	7.6	8.1	8.2	8.0	8.3	7.9	10.7	10.8	8.2	8.6	8.0	7.9
検査時水温(℃)		(24℃)	(24℃)	(24℃)	(24℃)	(23℃)	(23℃)	(23℃)	(23℃)	(23℃)	(23℃)	(24℃)	(23℃)	(23℃)	(23℃)	(23℃)	(23℃)	(23℃)
DO(mg/L)	7.5以上	8.5	8.6	9.7	8.7	8.3	8.6	9.7	9.9	10.2	9.3	7.0	13.1	11.6	9.7	10.3	8.1	8.6
BOD(mg/L)	2.0以下	0.5	0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	0.5	<0.5	1.5	1.0	1.5	0.9	0.5	2.7	0.8
COD(mg/L)	3.0以下	2.2	1.4	1.6	2.1	1.0	1.2	1.1	1.8	1.4	1.4	8.2	6.5	7.6	2.5	2.0	8.0	4.2
SS(mg/L)	25以下	6	3	9	12	2	7	1	2	1	1	9	2	6	11	3	11	7
大腸菌数 (CFU/100mL)	300以下	74	420	62	11	94	28	83	440	48	41	350	38	23	28	78	470	420
n-ヘキサン抽出 物質(mg/L)	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない
全窒素(mg/L)		0.52	0.61	0.74	2.4	1.1	0.46	0.43	0.24	0.98	0.81	0.61	0.40	0.52	0.37	0.39	0.93	0.63
全リン(mg/L)		0.032	0.034	0.029	0.18	0.044	0.014	0.012	0.018	0.037	0.027	0.070	0.130	0.11	0.021	0.018	0.097	0.097
カドミウム(mg/L)	0.003以下	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0004	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満
シアン(mg/L)	未検出で あること	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない
鉛(mg/L)	0.01以下	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
六価クロム(mg/L)	0.05以下	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満
砒素(mg/L)	0.01以下	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
総水銀(mg/L)	0.0005以下	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満
溶解性鉄(mg/L)					0.07	<0.02	<0.02											
銅(mg/L)					0.2	<0.1	<0.1											
【参考】類型 ※		A	B	A	AA	A	A	A	B	A	A	B	×	×	A	×	B	B

	…	新規採水場所
	…	今年度検査で基準値オーバーとなったもの
	…	昨年度と今年度の2年連続で基準値オーバーとなったもの
	…	昨年度検査で基準値オーバーであったが、今年度検査で改善されたもの

公共用水域水質測定分析結果一覧表 令和4年度

地 区		五 十 崎 地 区 （ 17箇所 ）																
測 点		No.18	No.19	No.20	No.21	No.22	No.23	No.24	No.25	No.26	No.27	No.28	No.29	No.30	No.31	No.32	No.33	No.34
水 域		牛の谷川下流	新川上流1	新川上流2	新川下流	大久保谷川上流	大久保谷川下流1	大久保谷川下流2	大久保谷川下流3	小田川下流	門松川下流	女体川下流	柿原川中流	大久喜養豚場下流	しゅうこ谷川下流	山王川上流	中の谷川	田野々川下流
採 水 場 所		牛の谷川橋上	新川上流①	新川上流②	新川出口	香林寺駐車場横	大久保谷川浄化設備取水口	大久保谷川浄化設備排水口	西冲集会所前	豊秋橋	門松川出口	女体川下流	柿原川中流	大久喜養豚場下流	しゅうこ谷川下流	久保久保興業㈱倉庫裏	小林作業所横	黒内坊上流
採 水 月 日		8月24日	8月24日	8月24日	8月24日	7月28日	7月28日	7月28日	7月28日	7月28日	7月28日	7月28日	7月28日	8月24日	7月28日	7月28日	7月28日	7月28日
採 水 時 刻		09:40	10:00	09:40	09:50	09:30	09:15	09:20	09:10	10:20	10:50	11:00	12:40	09:30	13:15	13:30	13:40	13:55
測定項目	基準値																	
天候		雨	雨	雨	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
気温(℃)		29.4	28.0	27.0	29.7	31.4	30.6	30.6	30.6	33.8	31.9	31.7	30.7	28.5	29.6	33.2	30.2	32.8
湿度(%)		—	—	—	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—
水温(℃)		27	23	23	24	28	27	27	27	27	27	26	29	23	20	25	28	30
流量(m ³ /min)		0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	2.0	2.2	200	5.2	0.3	1.2	0.3	0.5	0.8	3.2	0.4
pH	6.5～8.5	8.4	8.0	8.1	7.7	8.2	7.4	7.5	7.5	7.9	7.9	8.9	8.3	7.7	7.9	7.9	8.2	9.1
検査時水温(℃)		(23℃)	(23℃)	(23℃)	(23℃)	(24℃)	(24℃)	(23℃)	(23℃)	(23℃)	(23℃)	(23℃)	(23℃)	(23℃)	(23℃)	(23℃)	(23℃)	(23℃)
DO(mg/L)	7.5以上	9.8	8.2	8.7	5.8	9.5	7.3	5.9	4.9	9.4	8.5	8.3	9.4	8.2	9.8	9.5	6.7	12.2
BOD(mg/L)	2.0以下	0.9	0.7	0.7	0.7	0.5	1.8	2.7	0.9	<0.5	0.5	0.9	0.9	1.6	<0.5	<0.5	2.9	3.2
COD(mg/L)	3.0以下	3.3	3.6	3.4	3.4	3.2	5.1	8.2	4.9	2.8	3.3	3.8	3.6	34	0.9	1.3	8.4	7.0
SS(mg/L)	25以下	25	4	9	10	16	3	14	4	5	3	2	4	80	<1	<1	2	6
大腸菌数(CFU/100mL)	300以下	120	78	250	7	440	0	70	0	220	120	2,800	570	270	160	42	87	780
n-ヘキサン抽出物質(mg/L)	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない
全窒素(mg/L)		0.44	0.71	0.64	0.79	1.5	3.4	6.2	3.4	0.58	0.66	2.9	0.63	0.94	0.36	0.65	0.90	0.75
全リン(mg/L)		0.14	0.23	0.25	0.44	0.047	0.61	0.72	0.45	0.023	0.090	0.090	0.088	0.046	0.004	0.014	1.5	0.12
カドミウム(mg/L)	0.003以下	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0004未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0005	0.0009	0.0003未満	0.0003未満
シアン(mg/L)	未検出であること	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない
鉛(mg/L)	0.01以下	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満
六価クロム(mg/L)	0.05以下	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満
砒素(mg/L)	0.01以下	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満
総水銀(mg/L)	0.0005以下	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満
溶解性鉄(mg/L)															<0.02	<0.02		
銅(mg/L)															<0.1	<0.1		
【参考】類型 ※		A	A	A	B	B	B	B	D	A	A	×	B	D	A	A	B	×

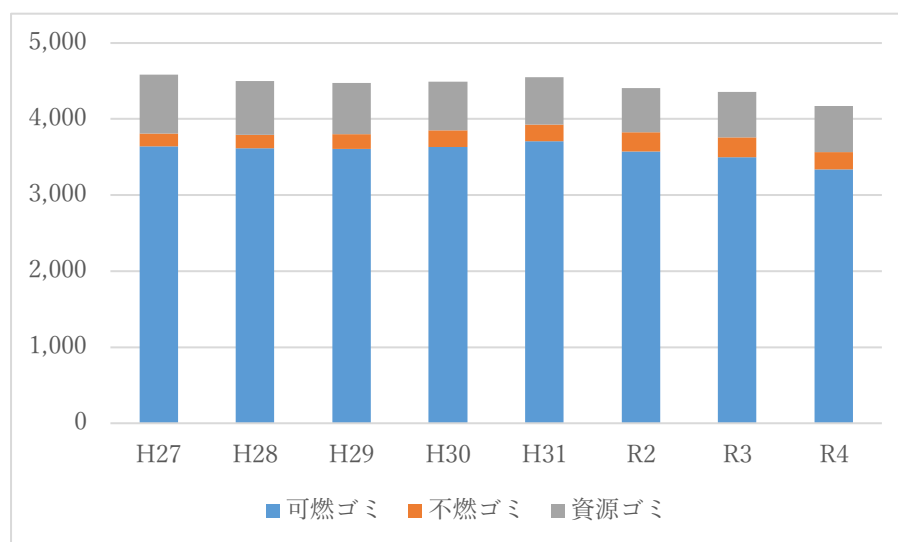
	…	新規採水場所
	…	今年度検査で基準値オーバーとなったもの
	…	昨年度と今年度の2年連続で基準値オーバーとなったもの
	…	昨年度検査で基準値オーバーであったが、今年度検査で改善されたもの

(2) ゴミ

① ゴミ排出量 事業系ゴミを含む

(単位: t)

収集区分	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
可燃ゴミ	3,645	3,612	3,611	3,637	3,706	3,573	3,495	3,335
不燃ゴミ	168	185	191	213	223	257	261	232
資源ゴミ	770	707	674	644	619	580	601	601
合計	4,583	4,504	4,446	4,494	4,548	4,410	4,357	4,168



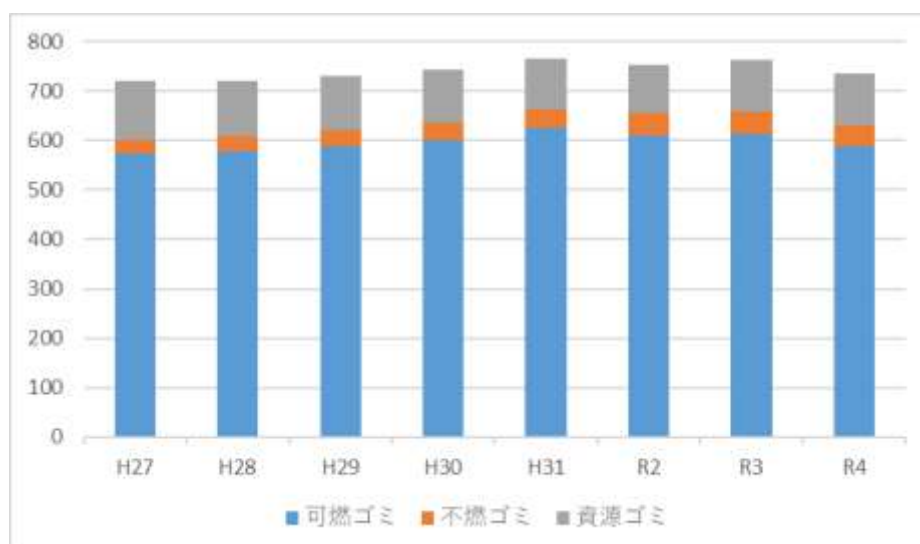
② ゴミ排出量・資源排出量 (一人一日当たりのゴミ・資源排出量)

(単位: g)

収集区分	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
可燃ゴミ	574	579	589	602	625	611	613	589
不燃ゴミ	26	30	31	35	38	44	46	41
資源ゴミ	121	113	110	107	104	99	105	106
合計	722	722	730	744	768	754	764	737

一人一日当たりのゴミの排出量＝総ゴミ量÷各年の10/1時点の人口÷各年の日数

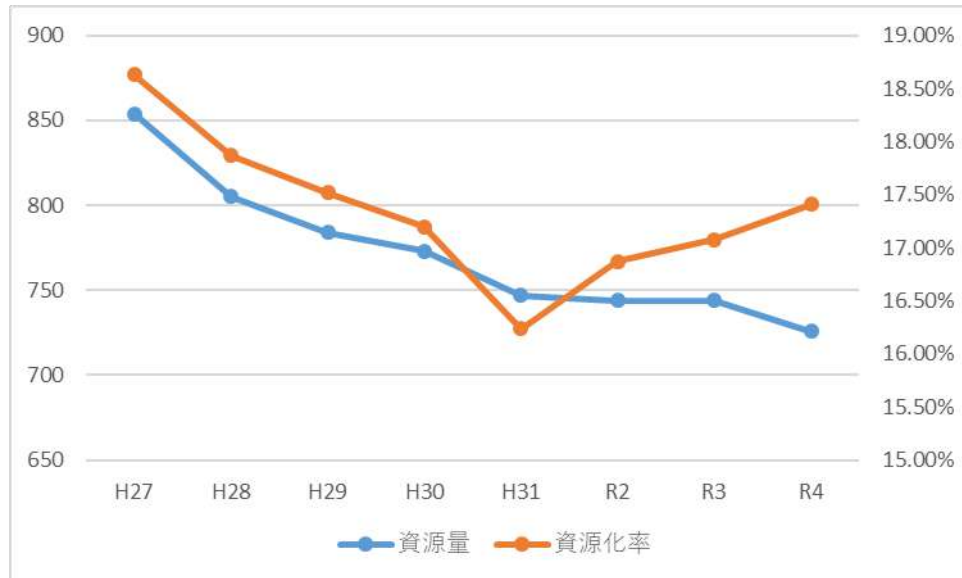
※四捨五入の関係で、数値に若干のずれがあります。ご了承ください。



③ ゴミ資源化率

事業系ゴミを含む（単位：t）

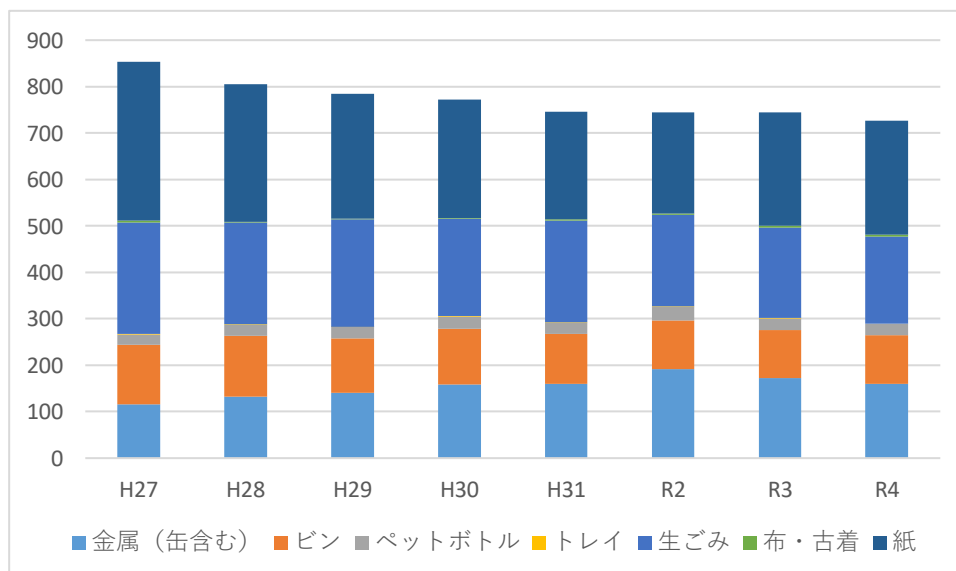
	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
資源量	854	805	784	773	747	744	744	726
資源化率	18.63%	17.87%	17.52%	17.20%	16.42%	16.87%	17.08%	17.41%



④ ごみ資源化量内訳

（単位：t）

	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
金属（缶含む）	116	132	141	158	160	191	173	160
ビン	128	132	117	121	107	106	103	105
ペットボトル	22	23	24	26	24	29	25	24
トレイ	1	1	1	1	1	1	1	0
生ゴミ	240	220	231	209	219	197	195	188
布・古着	5	1	2	2	3	3	4	4
紙	342	296	268	255	232	218	243	245
合計	854	805	784	772	746	745	744	726



⑤ 焼却処理量 事業系ゴミ含む

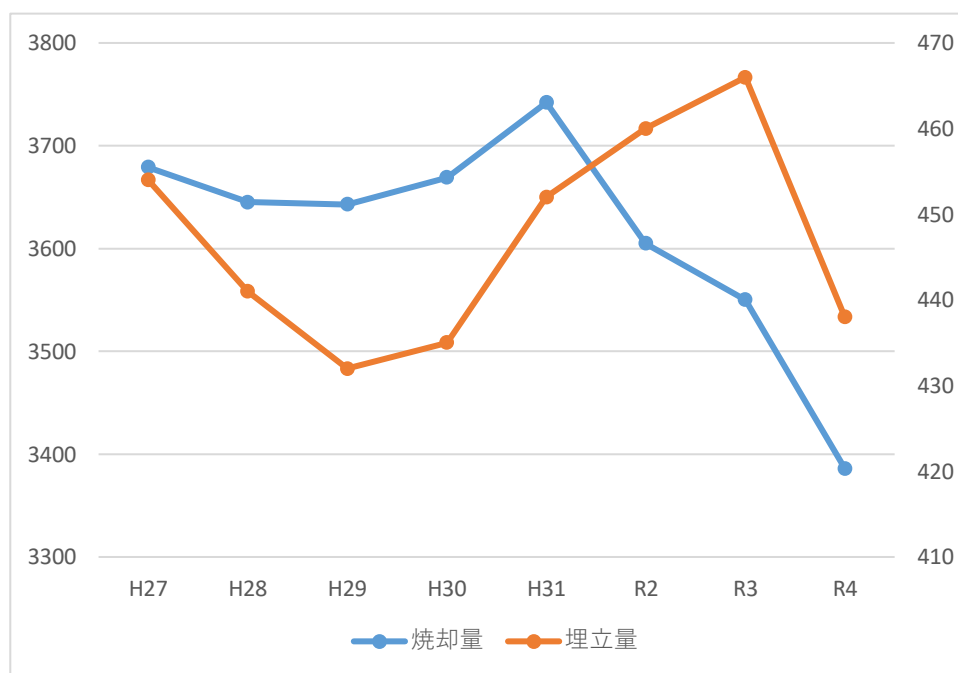
(単位：t)

	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
焼却量	3679	3645	3643	3669	3742	3605	3550	3386

⑥ 埋立処理量 事業系ゴミ含む

(単位：t)

	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
埋立量	454	441	432	435	452	460	466	438



(3) 再生可能エネルギー

再生可能エネルギー発電設備の導入状況等について（令和5年3月末現在）

- ・移行認定分：固定価格買取制度が開始されるH24.6月末までに設置した設備のうち、固定価格買い取り制度に移行したもの。
- ・新規認定分：固定価格買取制度が始まったH24.7月以降に設置されたもの。

	太陽光発電設備												
	移行認定分(実績)					新規認定分(実績)							
	10kW未満	10kW以上				10kW未満		10kW以上					
		うち50kW未満	うち50kW以上 500kW未満	うち500kW以上 1,000kW未満		うち自家発電 設備併設		うち50kW未満	うち50kW以上 500kW未満	うち500kW以上 1,000kW未満	うち1,000kW以上 2,000kW未満	うち2,000kW以上	
内子町	598kW(140件数)	0	0	0	0	1358kW(241件数)	24kW(5件数)	3614kW(96件数)	2339kW(92件数)	1275kW(4件数)	0	0	0

松山市	28904kW(7201件数)	2065kW(105件数)	1608kW(99件数)	458kW(6件数)	0	58092kW(11359件数)	2940kW(712件数)	126921kW(2528件数)	52395kW(2446件数)	11470kW(48件数)	9823kW(14件数)	26392kW(17件数)	26840kW(3件数)
今治市	8881kW(2094件数)	303kW(13件数)	193kW(11件数)	110kW(2件数)	0	18574kW(3444件数)	609kW(135件数)	127164kW(1848件数)	55954kW(1762件数)	9237kW(42件数)	13005kW(20件数)	35947kW(22件数)	13021kW(2件数)
宇和島市	2901kW(682件数)	98kW(2件数)	11kW(1件数)	87kW(1件数)	0	4893kW(899件数)	86kW(20件数)	22065kW(456件数)	11911kW(432件数)	6130kW(19件数)	2000kW(3件数)	2025kW(2件数)	0
八幡浜市	945kW(231件数)	139kW(7件数)	139kW(7件数)	0	0	1826kW(342件数)	52kW(14件数)	2528kW(109件数)	2068kW(106件数)	460kW(3件数)	0	0	0
新居浜市	6521kW(1587件数)	120kW(8件数)	120kW(8件数)	0	0	14017kW(2707件数)	478kW(121件数)	103896kW(1009件数)	25871kW(925件数)	16033kW(64件数)	9867kW(15件数)	4000kW(4件数)	48125kW(1件数)
西条市	7247kW(1726件数)	244kW(0件数)	244kW(11件数)	0	0	13581kW(2490件数)	208kW(47件数)	149133kW(1322件数)	35740kW(1223件数)	16362kW(65件数)	10018kW(15件数)	23012kW(16件数)	64000kW(3件数)
大洲市	1663kW(391件数)	208kW(9件数)	208kW(9件数)	0	0	2743kW(512件数)	76kW(18件数)	12328kW(176件数)	4107kW(157件数)	3471kW(13件数)	2500kW(4件数)	2250kW(2件数)	0
伊予市	2515kW(604件数)	786kW(16件数)	236kW(15件数)	0	550kW(1件数)	5197kW(987件数)	155kW(39件数)	11371kW(255件数)	5313kW(241件数)	2513kW(9件数)	2546kW(4件数)	1000kW(1件数)	0
四国中央市	4195kW(994件数)	215kW(12件数)	165kW(11件数)	50kW(1件数)	0	9080kW(1702件数)	362kW(86件数)	55831kW(891件数)	23850kW(799件数)	16511kW(76件数)	4749kW(8件数)	10721kW(8件数)	0
西予市	1844kW(441件数)	22kW(2件数)	22kW(2件数)	0	0	3686kW(636件数)	55kW(14件数)	26493kW(393件数)	12037kW(360件数)	6175kW(24件数)	3692kW(5件数)	4589kW(4件数)	0
東温市	3361kW(819件数)	440kW(9件数)	140kW(8件数)	300kW(1件数)	0	5330kW(1015件数)	198kW(45件数)	20322kW(330件数)	7932kW(314件数)	2105kW(8件数)	1266kW(2件数)	9019kW(6件数)	0
上島町	147kW(27件数)	0	0	0	0	674kW(138件数)	0	3435kW(92件数)	2701kW(89件数)	735kW(3件数)	0	0	0
久万高原町	147kW(38件数)	0	0	0	0	444kW(65件数)	3kW(1件数)	6201kW(45件数)	1316kW(37件数)	2387kW(6件数)	500kW(1件数)	1998kW(1件数)	0
松前町	2069kW(510件数)	160kW(4件数)	60kW(2件数)	100kW(2件数)	0	5003kW(941件数)	157kW(39件数)	12975kW(213件数)	4055kW(194件数)	2042kW(11件数)	3879kW(5件数)	3000kW(3件数)	0
砥部町	1352kW(330件数)	30kW(1件数)	30kW(1件数)	0	0	2338kW(441件数)	68kW(16件数)	8221kW(104件数)	2349kW(97件数)	781kW(3件数)	850kW(1件数)	4240kW(3件数)	0
伊方町	133kW(32件数)	20kW(1件数)	20kW(1件数)	0	0	275kW(54件数)	3kW(1件数)	4970kW(70件数)	2330kW(64件数)	1840kW(5件数)	800kW(1件数)	0	0
松野町	182kW(40件数)	0	0	0	0	314kW(54件数)	0	4045kW(54件数)	1893kW(51件数)	0	2152kW(3件数)	0	0
鬼北町	650kW(150件数)	0	0	0	0	1019kW(189件数)	19kW(3件数)	9276kW(155件数)	4568kW(144件数)	2318kW(9件数)	500kW(1件数)	1890kW(1件数)	0
愛南町	1212kW(274件数)	41kW(3件数)	41kW(3件数)	0	0	1727kW(296件数)	10kW(2件数)	25630kW(364件数)	13210kW(350件数)	900kW(4件数)	820kW(1件数)	10700kW(9件数)	0
市町村不明	536kW(145件数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(3) 再生可能エネルギー

再生可能エネルギー発電設備の導入状況等について（令和5年3月末現在）

	バイオマス発電設備（バイオマス比率考慮あり）					
	メタン発酵ガス	未利用木質		一般木質・ 農作物残さ	建設廃材	一般廃棄物・ 木質以外
		2,000kW 未満	2,000kW 以上			
内子町	0	1478kW(2件数)	0	0	0	0
松山市	710kW(2件数)	0	0	12500kW(1件数)	0	4165.656kW(1件数)
今治市	0	0	0	0	0	2053.862kW(1件数)
宇和島市	0	0	0	0	0	1261.275kW(1件数)
八幡浜市	0	0	0	0	0	0
新居浜市	500kW(1件数)	0	0	0	0	0
西条市	0	0	0	0	0	0
大洲市	94kW(1件数)	0	0	0	0	0
伊予市	0	0	0	0	0	0
四国中央市	0	0	0	0	0	62920kW(1件数)
西予市	0	0	0	0	0	0
東温市	0	0	0	0	0	0
上島町	0	0	0	0	0	0
久万高原町	0	0	0	0	0	0
松前町	0	0	0	0	0	0
砥部町	0	0	0	0	0	0
伊方町	0	0	0	0	0	0
松野町	0	0	0	0	0	0
鬼北町	0	0	0	0	0	0
愛南町	0	0	0	0	0	0
市町村不明	0	0	0	0	0	0

内子町環境報告書 2022

編集・発行 内子町環境政策室
発行年月 令和5年3月